

令和7年度

かんきょう観察報告書



～ みつめよう わたしたちの街 ～

 板橋区立エコポリスセンター

目 次

はじめに	1
第一編 令和7年度かんきょう観察の概要	2
第二編 かんきょう観察調査結果		
I . 板橋区の蝶一斉調査	6
II . 自由研究	23
III . 地域自主活動グループ	41
第三編 かんきょう観察全体説明会と自然観察会の報告		
I . かんきょう観察全体説明会の報告	52
II . 板橋の秋の蝶自然観察会報告	54
III 佐々木洋先生の冬の野鳥を中心とした自然観察 会	58

はじめに

板橋区では、区民一人ひとりが身近な環境を観察することを通して、環境を見つめ直し、また環境への理解を深めていただくことを目的として、平成元年度から区民による「かんきょう観察事業」を行っています。

令和7年度は60名のかんきょう観察員の皆様が、区内の動植物の生息状況の調査や自然観察会等を行いました。

この報告書は、「かんきょう観察」に参加された皆様一人ひとりの熱意と努力の記録です。

また、この事業の事務局を担っているエコポリスセンターは平成7年4月に開設され、この31年間に約533万人の来館者を迎え、地域の環境学習・3R活動の拠点として根付いてまいりました。

今後とも皆様の活動の場としてご利用いただければ幸いです。

令和8年3月

板橋区立エコポリスセンター

第一編 令和7年度かんきょう観察の概要

緑豊かで、より快適な環境で暮らすことは私たち皆の願いです。環境を保全し、住み良いまちづくりを進めるためには、区民一人ひとりが身近な環境を「見て」「知って」「考えて」「行動して」いくことが大切です。

かんきょう観察事業は、区内の動植物の生息状況や身近な環境問題を自分自身で調べていくことにより、現状を知り、興味を喚起し、これからの快適な環境づくりを自分で考えて行動していただくよう手助けしていくものです。

I. 「かんきょう観察員」の募集

「かんきょう観察員」は、中学生以上の方を対象に募集を行っています。毎年、自然や身近な環境問題に興味のある方に参加していただいています。

令和7年度は、広報いたばし(令和7年3月16日号)で公募し、60名の方に「かんきょう観察員」に登録していただきました(新規10名)。

II. 実施内容

令和7年度のかんきょう観察事業は、大きく分けて3つの分野で活動を行いました(表1-1)。

1つ目は、「蝶の調査で、身近な自然を知ろう」というテーマで、蝶について板橋区立美術館周辺、都立赤塚公園赤塚城址周辺、板橋区立赤塚植物園及び万葉薬用園他で調査を実施しました。今年度も、昨年度に引き続き、一定区域のみを参加者全員で春に一斉に調査し、その調査方法をもとにかんきょう観察員が個人で自宅や近所の公園等で定点調査を行いました(表1-2)。

2つ目は、自由テーマとして、かんきょう観察員各自が、興味・関心に合ったテーマで自由研究を行いました。

3つ目は、自主的なグループ活動として、地域ごとにかんきょう観察員同士で興味・関心に合わせたグループを作っていただき、自由にその活動レポートを紹介していただきました。また、そのうちの2グループ(荒川を楽しむ会、板橋区の蝶を調査する会)にエコポリスセンター内で写真展を行っていただきました(表1-4、表1-5)。

また、かんきょう観察をより楽しく、充実したものにするため、全体説明会、秋の蝶自然観察会、佐々木洋先生の野鳥を中心とした自然観察会を行いました(表1-3)。

表 1-1 令和 7 年度かんきょう観察 活動分野一覧

項目	場所	調査日・調査期間	参加者数
春の蝶一斉調査会	区立美術館前～ 赤塚城跡周辺	5月17日(土)雨天のため 18日(日)に実施	16名 (応募29名)
自由研究	区内各所	4月1日(火) ～令和8年1月31日(土)	希望者のみ (自由活動)
地域自主活動グループ	区内各所	年間を通して	

表 1-2 令和 7 年度かんきょう観察 定点調査

項目	場所	調査日・調査期間	参加者数
春の蝶地域調査	自宅周辺 1か所	5月18日(日)～8月31日(日)	45名

表 1-3 令和 7 年度かんきょう観察 全体説明会と自然観察会

実施内容	場所	実施日	参加者数
かんきょう観察全体説明会	エコポリスセンター	4月13日(日)	31名
秋の蝶自然観察会	区立美術館前～ 赤塚城跡周辺	9月13日(土)	11名 (応募26名)
佐々木洋先生の 野鳥を中心とした自然観察会	浮間公園	令和8年1月18日(日)	25名 (応募41名)

表 1-4 令和 7 年度かんきょう観察 地域自主活動グループ 写真展①

館内展示「板橋区で春から夏に見られる蝶ベスト 10」写真展(板橋区の蝶を調査する会)	
開催日	写真展:5月14日~7月13日(休館日 5/19・6/16 を除く 59 日間) 9:00~17:00 人気投票:上記期間中の 9:30~11:30、13:40~16:00
ねらい・場所・成果など	身近だがなかなかそばで見ることができない蝶の写真を見ることで、板橋区に生息している蝶に対する愛着を深め、身近な環境に興味を持ってもらう。
人気投票	人気投票:参加者数 890 名、投票数 2632 票「板橋区の蝶を調査する会」が板橋区内で生息する蝶を観察し、記録を取り続けてきた写真の中から、選りすぐりの写真や標本を展示し、23 種類の蝶の写真に人気投票していただき、参加者には蝶台紙を用意し、台紙に貼ることができる「蝶の写真シール」を配布した。

質問コーナー	★質問コーナー6月22日(日)14:00~16:00 館内展示コーナーで受付 事前質問参加者:40名、当日参加者:6名、合計:46名
実施概要	「板橋の蝶写真展」の期間中、質問を展示内の付箋で募集した。
成果など	当日は、大人4名・子ども2名の参加があり、蝶のことについてより深く知ってもらえた。板橋にも多くの蝶が住んでいることを知ってもらえた。蝶にもそれぞれ個性があり、様々な面白い特徴があることを知ってもらえた。

「板橋の蝶 写真展」(館内展示)
春から夏にかけて良く見られる蝶ベスト10
人気投票結果 開催期間 2025.5.14~7.13
ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

順位	「板橋の蝶 写真展」	得票数
1	ヤマトシジミの表	405
2	アオスジアゲハの表	242
3	アゲハの表	232
4	アオスジアゲハの裏	162
5	ヤマトシジミの裏	150
6	キタキチョウの表	141
7	モンシロチョウの表	141
8	アカボシゴマダラの表	123
9	アカボシゴマダラの裏	106
10	アゲハの裏	100



第1位 ヤマトシジミの表



第2位 アオスジアゲハの表



第3位 アゲハの表

参加者数	890
投票数	2632



↑ 質問コーナーの様子

← 人気投票結果



質問コーナーQ&A→

表 1-5 令和 7 年度かんきょう観察 地域自主活動グループ 写真展②

「館内展示「荒川の植物写真展～四季～」「荒川を楽しむ会」	
開催日	写真展：7月20日～8月31日 9:00～17:00 (休館日 7/22・8/18 を除く 41 日間) 人気投票：上記期間中の 9:30～11:30、13:40～16:00
ねらい・場所・成果など	荒川の河川敷で撮られた写真を鑑賞することで、植物に対する愛着を深め、身近な環境に興味を持ってもらう。
人気投票	今年はきれいな花の写真だけではなく、葉っぱのはたらきや受粉方法、特定外来生物などのテーマで展示していただいたため、質問コーナーでは複葉についての質問もあった。人気投票をしていただいた方に荒川の植物写真のシールを配布(1人1日1枚)した。人気投票：参加者数 300名、投票数 898票。投票結果の順位を館内とWebに展示。人気投票は好きなものを3つ選び番号を記入する簡単なもののため、小さなお子さまからお年寄りの方まで気軽に参加して楽しんでいただけた。

質問コーナー	★質問コーナー8月26日(火)14:00～16:00 館内展示コーナーで受付 事前質問参加者：30名、当日参加者：12名、合計：42名
実施概要	「荒川の植物写真展」の期間中、質問を展示内の付箋で募集した。
成果など	「荒川を楽しむ会」の方に当日荒川の植物を採取して常駐していただき、随時来館者からの質問に答えていただいた。当日は、大人7名・子ども5名の参加があり、荒川の植物のことについてより深く知ってもらえた。・板橋にも多くの植物が生えていることを知ってもらえた。・展示しながら説明してくださったので、複葉などの展示内容がより詳しく理解できた。・Q&Aを館内に展示し、ホームページにアップした。



↑ 質問コーナーの様子



← 植物の実物

人気投票結果→

「荒川の植物写真展」(館内展示)
人気投票結果 開催期間 2025.7.20～8.31
ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

順位	R7 「荒川の植物写真展」	得票数
1	オオイヌノフグリ	105
2	ヒガンバナ	63
3	オオカワヂシャ	62
4	タンポポ	60
5	クズ	59
6	ヒメオドリコソウ	48
7	センニンソウ	43
8	ヒルザキツキミソウ	42
9	ハルジオン	38
10	カワヂシャ	34



第1位 オオイヌノフグリ



第2位 ヒガンバナ



第3位 オオカワヂシャ

参加者数	300
投票数	898

第二編 かんきょう観察調査結果

I 板橋区の蝶一斉調査

板橋区春の蝶一斉調査会と地域調査まとめ

執筆：板橋区の蝶を調査する会

1 はじめに

板橋区立エコポリスセンターでは、毎年区民参加による環境調査「かんきょう観察」を実施しています。今年度は「蝶」をテーマとして、かんきょう観察員が調査を行ったので、その内容を報告します。

2 調査参加者

エコポリスセンターかんきょう観察員 45名

3 調査期間等

令和7年5月から8月まで毎月同一地点を1回観察しました（観察場所は p.17 表 2-9 板橋区の蝶観察参加者及び観察場所、及び p.18 観察場所地図のとおり）。

4 調査方法等

参加者は、自分の観察する場所を1カ所決定し、毎月5月から8月まで、蝶の観察を行いました。蝶の観察は、「板橋区の蝶を調査する会」が作成し、エコポリスセンターが配布した資料（p.9-10）またはエコポリスセンターホームページの「蝶のデジタル図鑑」を参考にし、出現した蝶と比較して種の同定を行いました。また、確認した蝶は p.11 の地域調査票に記録し、調査終了後、エコポリスセンターに報告しました。エコポリスセンターに報告されたデータは「板橋区の蝶を調査する会」が取りまとめました。

5 観察結果の概要

今年度の「板橋区の蝶」の観察は、蝶の見分け方を兼ねた5月の一斉調査会を始め、9月の秋の蝶自然観察会も予定通り開催できました（p.55）。

かんきょう観察員が5月～8月に調査した「板橋区の蝶」観察結果は、下記及び p.12～18 の「板橋区の蝶地域調査票」を集計して作成しました、板橋区の蝶一斉調査月毎集計表・蝶確認回数の通りです。

なお、結果報告にあたり、かんきょう観察員が観察した蝶の種をそのままデータとして掲載しました。よって、観察員の方が観察した蝶の同定にあたり、間違えて同定している場合があります。これを考慮に入れて読んでいただきたいと思います（特に板橋区の希少種の同定につきましては、写真による確認作業等はしていませんので、誤りがある可能性が含まれることをご了承ください。）

(1) 蝶の確認回数(回)

蝶の確認総数は、観察者一人一人が1回(1日)の観察で蝶を1種類観察した場合をカウント1としています。但し、同一場所での同種類の蝶は何回カウントしてもカウント1、としました。このカウントを集計した結果は、月毎では174回~264回、総計896回でした。

(2) 蝶確認種数

蝶確認種数は、観察者全員の観察した蝶が月毎に何種類観察できたかを集計しています。8月の38種が一番多い月でした。また、5月~8月に観察された各月の蝶確認種数は30種~38種となっており、月毎の変動はあまりなかったようです。観察期間の4ヶ月では、46種の蝶が観察されました。これは、「板橋区の蝶を調査する会」が毎年観察している種数と同程度の観察状況となりました。

(3) 確認した蝶の多い種

観察回数が一番多かった種は、5・6月がモンシロチョウで7・8月がアゲハでした。観察期間の4ヶ月を通してみると、アゲハが一番多く見られた事となりました。多い順にアゲハ・モンシロチョウ・ヤマトシジミ・アオスジアゲハ・ツマグロヒョウモンとなりました。

2022年のかんきょう観察員による調査結果では、モンシロチョウ・ヤマトシジミ・アゲハ・アオスジアゲハ・クロアゲハとなっていました。5位の種がクロアゲハからツマグロヒョウモンに変わりました。1位~4位までは順位は変わりましたが、それぞれ多くの回数が観察されました。

(4) 希少種(板橋)の蝶

板橋区では、これまでに確認されていますが、観察出来る事が少ない希少種(板橋で)の蝶が観察できました。アゲハチョウ科ではオナガアゲハ・モンキアゲハ、シジミチョウ科ではアカシジミ・ミズイロオナガシジミ、タテハチョウ科ではアサマイチモンジ・イチモンジチョウ・ミドリヒョウモン、セセリチョウ科ではオオチャバネセセリやコチャバネセセリを観察したとの報告がありました。なお、これらの種については、写真等での確認作業をしていないことをご了承ください。

表 2-1 月毎集計表・蝶確認データまとめ

2025年かんきょう観察員による板橋区の蝶確認データ					
月毎蝶確認回数・希少種					
項目 \ 月	5月	6月	7月	8月	合計
蝶確認数(回)	174	198	260	264	896
蝶確認種数(種)	30	33	37	38	46
確認回数1番	モンシロチョウ	モンシロチョウ	アゲハ	アゲハ	アゲハ
確認回数2番	アゲハ	アゲハ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	モンシロチョウ
確認回数3番	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	モンシロチョウ	アオスジアゲハ	ヤマトシジミ
確認回数4番	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	アオスジアゲハ	モンシロチョウ	アオスジアゲハ
確認回数5番	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン	ツマグロヒョウモン
希少種等	オナガアゲハ・モンキアゲハ・アカシジミ・ミスイロオナガシジミ・アサマイチモンジ・イチモンジチョウ・ミドリヒョウモン・オオチャバネセセリ・コチャバネセセリ				

表 2-2 参考：2022 月毎集計表・蝶確認データまとめ

2022年かんきょう観察員による板橋区の蝶確認データ					
月毎蝶確認数・希少種数					
項目 \ 月	5月	6月	7月	8月	合計
蝶確認数(回)	129	172	176	170	647
蝶確認種数(種)	26	31	33	29	40
確認数1番	モンシロチョウ	モンシロチョウ	アゲハ	アゲハ	モンシロチョウ
確認数2番	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ	モンシロチョウ	ヤマトシジミ	ヤマトシジミ
確認数3番	アゲハ	アゲハ	ヤマトシジミ	アオスジアゲハ	アゲハ
希少種等	モンキアゲハ・ミドリヒョウモン・ギンイチモンジセセリ・オオチャバネセセリ				

板橋区内で見られる蝶




図 2-1 「板橋区で見られる蝶」の写真(表)



図 2-2 「板橋区で見られる蝶」の写真(裏)

表 2-3 地域調査票

令和7年度(2025)かんきょう観察事業 板橋区の蝶 地域調査票 資料④-2						
できるだけデータでお送りください。パソコンメールをお持ちの方には入力用データファイルをお送りいたします。						
観察員氏名:				観察場所:		
観察員番号:						
調査期間:5月18日~8月31日 提出〆切:9月15日						
	見本	5月	6月	7月	8月	備 考
「アゲハチョウ科」						◎名前が確認出来なかった蝶
①アオスジアゲハ	○					5月
②アゲハ	○					大型:
③オナガアゲハ						中型:
④カラスアゲハ						小型:
⑤キアゲハ						6月
⑥クロアゲハ	○					大型:
⑦ジャコウアゲハ						中型:
⑧ナガサキアゲハ						小型:
⑨モンキアゲハ						7月
「シロチョウ科」						大型:
⑩キタキチョウ	○					中型:
⑪スジグロシロチョウ						小型:
⑫ツマキチョウ						8月
⑬モンキチョウ						大型:
⑭モンシロチョウ	○					中型:
「シジミチョウ科」						小型:
⑮アカシジミ						★名前が確認できなかった蝶について
⑯ウラギンシジミ						記入例
⑰ウラナミアカシジミ						◎大型: 翅は黒 胸・腹部に赤い模様
⑱ウラナミシジミ						中型:
⑲ツバメシジミ						小型:
⑳ベニシジミ						
㉑ミズイロオナガシジミ						
㉒ムラサキシジミ						
㉓ムラサキツバメ						
㉔ヤマトシジミ	○					
㉕ルリシジミ						
「タテハチョウ科」						
⑳アカタテハ						
㉑アカボシゴマダラ	○					
㉒アサギマダラ						
㉓アサマイチモンジ						
㉔イチモンジチョウ						
㉕ウラギンヒョウモン						
㉖キタテハ						
㉗クロノマチョウ						
㉘ゴマダラチョウ						
㉙コムシジ						
㉚コムラサキ						
㉛サトキマダラヒカゲ						
㉜ツマグロヒョウモン	○					
㉝テングチョウ						
㉞ヒオドシチョウ						
㉟ヒカゲチョウ						
㊱ヒメアカタテハ						
㊲ヒメウラナミジャノメ						
㊳ヒメジャノメ						
㊴ホシミスジ						
㊵ミドリヒョウモン						
㊶ルリタテハ						
「セセリチョウ科」						
㊷イチモンジセセリ						
㊸オオチャバネセセリ						
㊹キマダラセセリ						
㊺ギンイチモンジセセリ						
㊻コチャバネセセリ						
㊼ダイミョウセセリ						
㊽チャバネセセリ						
㊾ミヤマチャバネセセリ						



蝶の大きさ・色の特徴等を確認したり、蝶の写真を撮るなどして、エコポリスセンターのホームページに掲載されている「板橋で見られる蝶 デジタル観察図鑑」で比べてみてください。
<https://butterfly.itbs-ecopo.jp/>

◎観察した蝶に○を記入してください。

表 2-4 板橋区の蝶一斉調査 集計表(5月)

蝶の種	確認回数
⑭モンシロチョウ	31
②アゲハ	29
⑳ヤマトシジミ	23
①アオスジアゲハ	21
⑤キアゲハ	7
⑳ツマグロヒョウモン	7
⑲アカボシゴマダラ	6
④ヒメジャノメ	6
⑳ベニシジミ	4
③⑤コムスジ	4
⑥クロアゲハ	3
⑦ジャコウアゲハ	3
⑩キタキチョウ	3
⑬モンキチョウ	3
⑳ゴマダラチョウ	3
⑳⑲ムラサキシジミ	2
⑳⑲ムラサキツバメ	2
⑲⑲ルリシジミ	2
⑳⑲キタテハ	2
⑳⑲サトキマダラヒカゲ	2
④④④イチモンジセセリ	2
④④④カラスアゲハ	1
⑨⑨⑨モンキアゲハ	1
⑪⑪⑪スジグロシロチョウ	1
⑳⑳⑳コムラサキ	1
⑳⑳⑳テングチョウ	1
④④④④④ヒメウラナミジャノメ	1
④④④④④ヒメアカタテハ	1
④④④④④ミドリヒョウモン	1
④④④④④ルリタテハ	1
③③③オナガアゲハ	0
⑧⑧⑧ナガサキアゲハ	0
⑫⑫⑫ツマキチョウ	0
⑮⑮⑮アカシジミ	0
⑰⑰⑰ウラギンシジミ	0
⑰⑰⑰ウラナミアカシジミ	0
⑰⑰⑰ウラナミシジミ	0
⑰⑰⑰ツバメシジミ	0
⑲⑲⑲ミズイロオナガシジミ	0
⑳⑲⑲アカタテハ	0
⑳⑲⑲アサギマダラ	0
⑲⑲⑲アサマイチモンジ	0
⑳⑳⑳イチモンジチョウ	0
⑳⑳⑳ウラギンヒョウモン	0
⑳⑳⑳クロコノマチョウ	0
④④④④④ヒオドシチョウ	0
④④④④④ヒカゲチョウ	0
④④④④④ホシミスジ	0
④④④④④オオチャバネセセリ	0
④④④④④キマダラセセリ	0
51 ギンイチモンジセセリ	0
52 コチャバネセセリ	0
53 ダイミョウセセリ	0
54 チャバネセセリ	0
55 ミヤマチャバネセセリ	0
30種	174

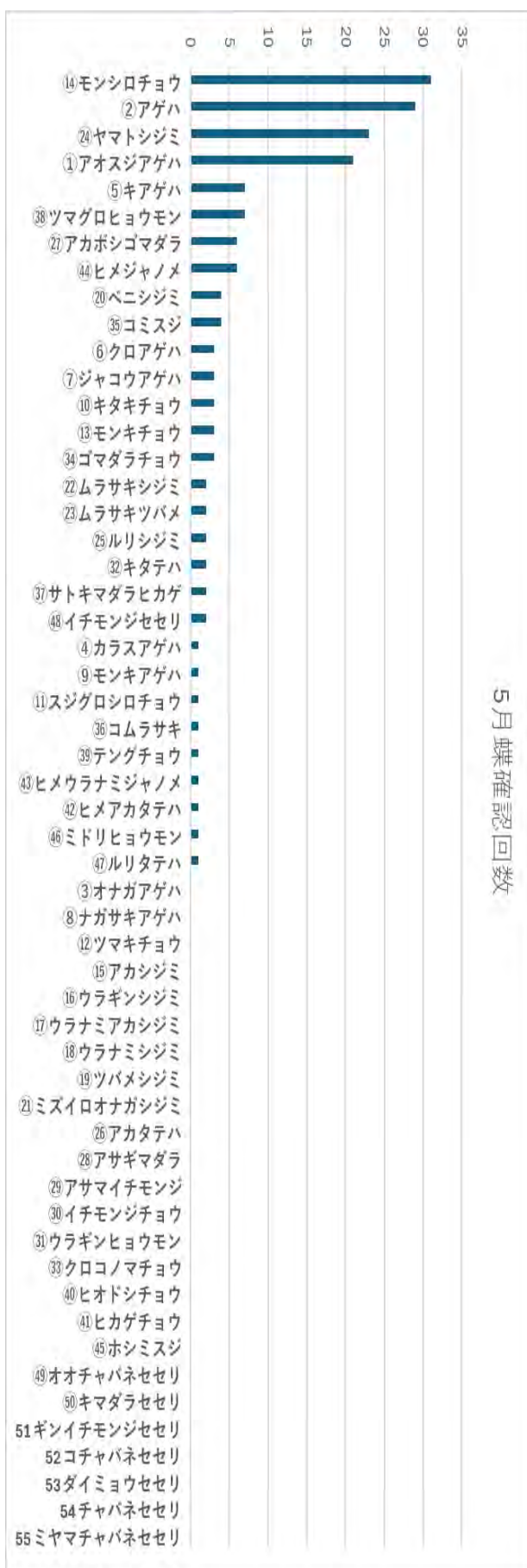


表 2-5 板橋区の蝶一斉調査 集計表(6月)

蝶の種	確認回数
⑭モンシロチョウ	33
②アゲハ	30
⑭ヤマトシジミ	27
①アオスジアゲハ	21
⑳ツマグロヒョウモン	12
⑥クロアゲハ	7
④④ヒメジャノメ	7
⑤キアゲハ	6
⑭アカボシゴマダラ	6
⑩キタキチョウ	5
⑳ベニシジミ	5
⑳⑳サトキマダラヒカゲ	4
⑬モンキチョウ	3
⑬⑬ウラギンシジミ	3
⑫⑫ルリシジミ	3
④④カラスアゲハ	2
⑱⑱ツバメシジミ	2
⑳⑳ゴマダラチョウ	2
⑳⑳コムスジ	2
⑳⑳テングチョウ	2
④④ヒカゲチョウ	2
④④ヒメアカタテハ	2
④④ルリタテハ	2
⑪⑪スジグロシロチョウ	1
⑮⑮アカシジミ	1
⑱⑱ウラナミシジミ	1
⑳⑳ムラサキシジミ	1
⑳⑳ムラサキツバメ	1
⑳⑳キタテハ	1
⑳⑳コムラサキ	1
④④ミドリヒョウモン	1
④④イチモンジセセリ	1
52 コチャバネセセリ	1
③③オナガアゲハ	0
⑦⑦ジャコウアゲハ	0
⑧⑧ナガサキアゲハ	0
⑨⑨モンキアゲハ	0
⑫⑫ツマキチョウ	0
⑰⑰ウラナミアカシジミ	0
⑳⑳ミズイロオナガシジミ	0
⑳⑳アカタテハ	0
⑳⑳アサギマダラ	0
⑳⑳アサマイチモンジ	0
⑳⑳イチモンジチョウ	0
⑳⑳ウラギンヒョウモン	0
⑳⑳クロコノマチョウ	0
④④ヒオドシチョウ	0
④④ヒメウラナミジャノメ	0
④④ホシミスジ	0
④④オオチャバネセセリ	0
④④キマダラセセリ	0
51 ギンイチモンジセセリ	0
53 ダイミョウセセリ	0
54 チャバネセセリ	0
55 ミヤマチャバネセセリ	0
33種	198

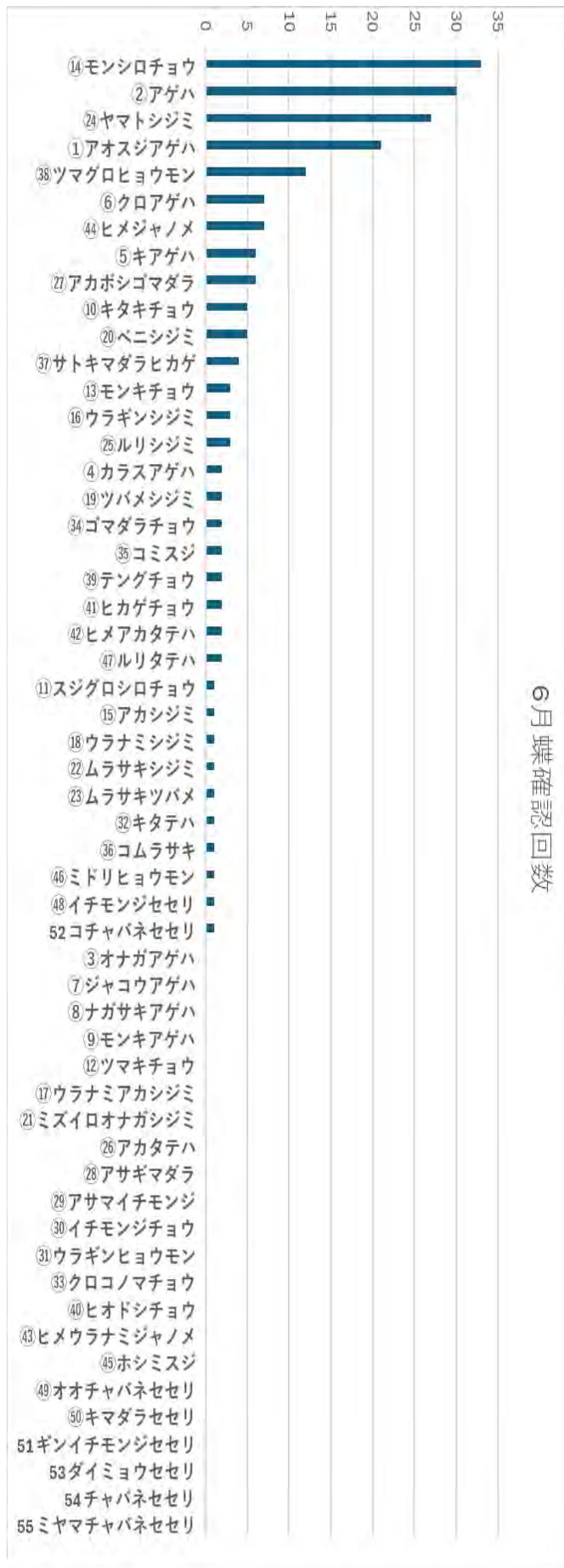
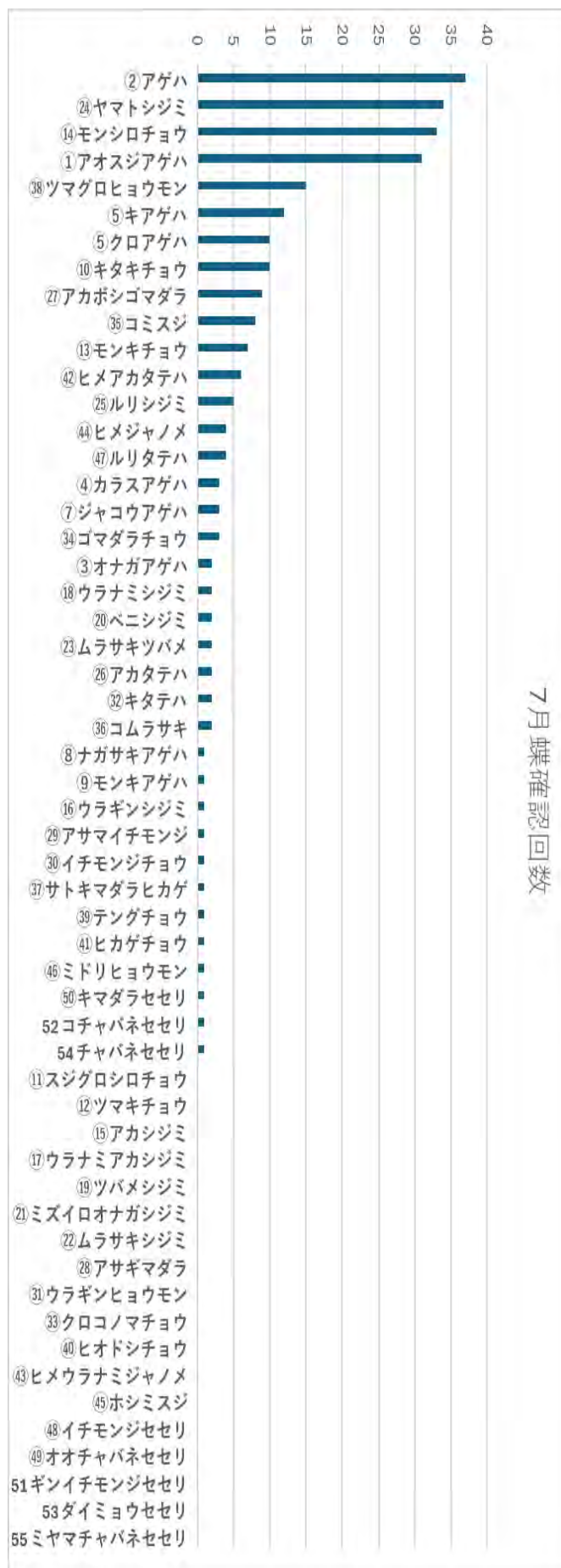


表 2-6 板橋区の蝶一斉調査 集計表(7月)

蝶の種	確認回数
②アゲハ	37
②④ヤマトシジミ	34
⑭モンシロチョウ	33
①アオスジアゲハ	31
③⑧ツマグロヒョウモン	15
⑤キアゲハ	12
⑤クロアゲハ	10
⑩キタキチョウ	10
②⑦アカボシゴマダラ	9
③⑤コムリスジ	8
⑬モンキチョウ	7
④②ヒメアカタテハ	6
⑤⑤ルリシジミ	5
④④ヒメジャノメ	4
④⑦ルリタテハ	4
④④カラスアゲハ	3
⑦⑦ジャコウアゲハ	3
③④ゴマダラチョウ	3
③③オナガアゲハ	2
⑩⑧ウラナミシジミ	2
②⑩ベニシジミ	2
②③ムラサキツバメ	2
②⑥アカタテハ	2
③②キタテハ	2
③⑥コムラサキ	2
⑧⑧ナガサキアゲハ	1
⑨⑨モンキアゲハ	1
⑩⑩ウラギンシジミ	1
⑩②⑨アサマイチモンジ	1
⑩⑩⑩イチモンジチョウ	1
⑩⑩⑩サトキマダラヒカゲ	1
⑩⑩⑩テングチョウ	1
⑩⑩⑩ヒカゲチョウ	1
⑩⑩⑩ミドリヒョウモン	1
⑩⑩⑩キマダラセセリ	1
⑩⑩⑩52 コチャバネセセリ	1
⑩⑩⑩54 チャバネセセリ	1
⑩⑩⑩①①スジグロシロチョウ	0
⑩⑩⑩①②ツマキチョウ	0
⑩⑩⑩①⑤アカシジミ	0
⑩⑩⑩①⑦ウラナミアカシジミ	0
⑩⑩⑩①⑨ツバメシジミ	0
⑩⑩⑩①⑪ミズイロオナガシジミ	0
⑩⑩⑩①⑫ムラサキシジミ	0
⑩⑩⑩①⑮アサギマダラ	0
⑩⑩⑩①⑰ウラギンヒョウモン	0
⑩⑩⑩①⑳クロコノマチョウ	0
⑩⑩⑩①㉑ヒオドシチョウ	0
⑩⑩⑩①㉓ヒメウラナミジャノメ	0
⑩⑩⑩①㉕ホシミスジ	0
⑩⑩⑩①㉗イチモンジセセリ	0
⑩⑩⑩①㉙オオチャバネセセリ	0
⑩⑩⑩①51 ギンイチモンジセセリ	0
⑩⑩⑩①53 ダイミョウセセリ	0
⑩⑩⑩①55 ミヤマチャバネセセリ	0
37種	260



7月蝶確認回数

表 2-8 板橋区の蝶一斉調査 集計表(5月～8月)

蝶の種	確認回数
②アゲハ	136
⑭モンシロチョウ	120
⑳ヤマトシジミ	117
①アオスジアゲハ	97
⑳ツマグロヒョウモン	48
⑤キアゲハ	41
⑳アカボシゴマダラ	32
⑥クロアゲハ	26
⑩キタキチョウ	25
④④ヒメジャノメ	23
⑬モンキチョウ	20
③⑤コムスジ	17
④⑧イチモンジセセリ	17
④②ヒメアカタテハ	15
②⑤ルリシジミ	14
③④ゴマダラチョウ	13
④⑦ルリタテハ	13
②⑩ベニシジミ	11
③②キタテハ	11
③⑦サトキマダラヒカゲ	11
④④カラスアゲハ	10
⑦⑦ジャコウアゲハ	8
②③ムラサキツバメ	8
①⑥ウラギンシジミ	6
③⑥コムラサキ	5
③⑩テングチョウ	5
④①ヒカゲチョウ	5
④⑥ミドリヒョウモン	5
①⑧ウラナミシジミ	4
②②ムラサキシジミ	4
②⑥アカタテハ	3
⑤④ チャバネセセリ	3
③③オナガアゲハ	2
⑨⑨モンキアゲハ	2
①①スジグロシロチョウ	2
①⑤アカシジミ	2
①⑨ツバメシジミ	2
③⑩イチモンジチョウ	2
③③クロコノマチョウ	2
④③ヒメウラナミジャノメ	2
⑤⑤キマダラセセリ	2
⑧⑧ナガサキアゲハ	1
②①ミズイロオナガシジミ	1
②⑨アサマイチモンジ	1
④⑨オオチャバネセセリ	1
⑤②コチャバネセセリ	1
①②ツマキチョウ	0
①⑦ウラナミアカシジミ	0
②⑧アサギマダラ	0
③①ウラギンヒョウモン	0
④④ヒオドシチョウ	0
④⑤ホシミスジ	0
⑤①ギンイチモンジセセリ	0
⑤③ダイミョウセセリ	0
⑤⑤ミヤマチャバネセセリ	0
46種	896

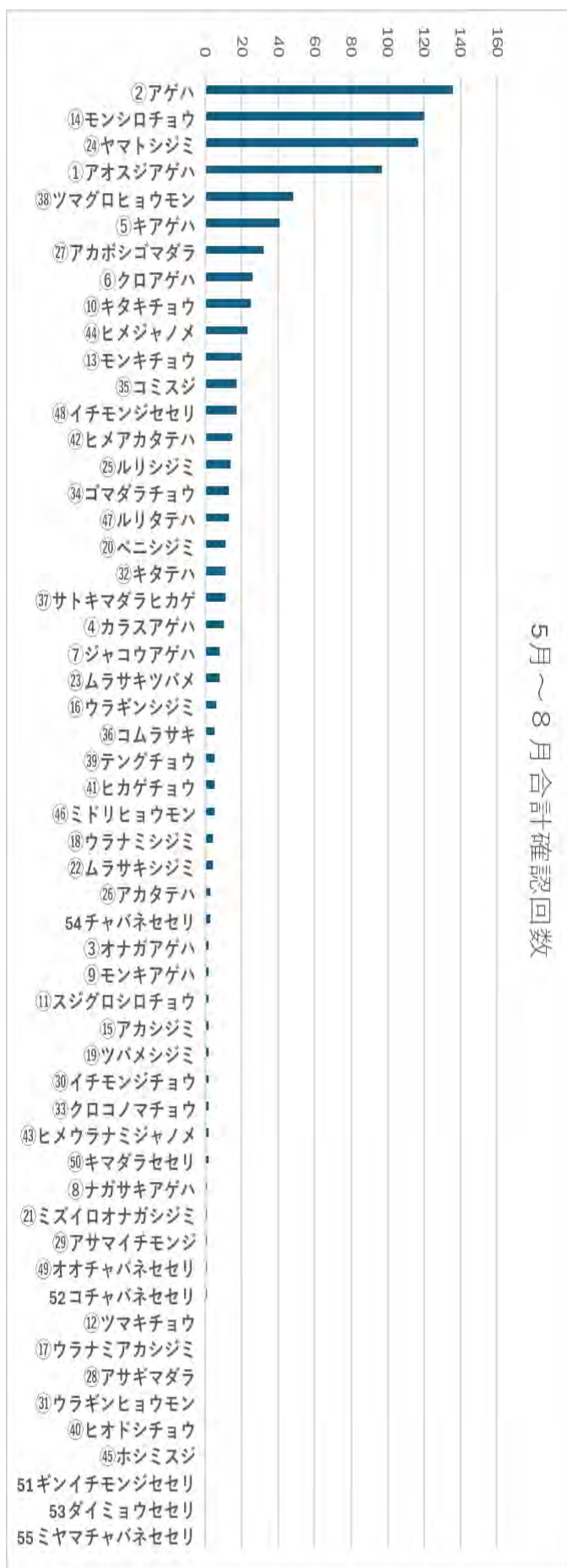
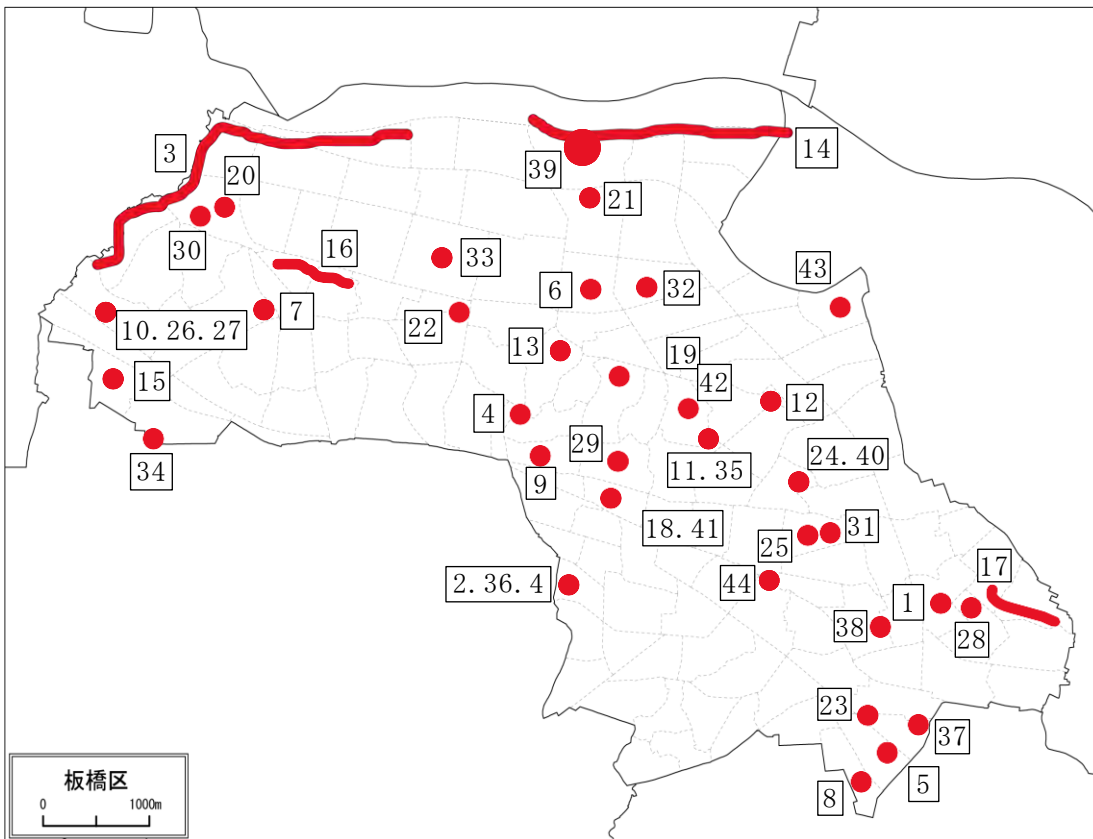


表 2-9 板橋区の蝶観察参加者及び観察場所

(個人情報保護のため名前は表示しません。)

番号	観察場所 (5月～8月)
1	仲宿ふれあい広場 (仲宿 32)
2	都立城北中央公園
3	白子川 (成和橋～新河岸川合流間)、荒川土手沿 (笹目橋～新河岸 2丁目)
4	西台 1, 3, 4丁目
5	中丸町 15-1 周辺
6	蓮根 2丁目
7	赤塚 5-12 新規公園
8	南町住宅
9	若木 1-19
10	成増 3丁目
11	前野町 5丁目前野公園付近
12	見次公園 (前野 4丁目)
13	西台 1丁目 41 (志村学園周辺)
14	荒川 (戸田橋～ワンド)
15	成増 1丁目マンション周辺
16	赤塚公園大門地区、赤塚公園沖山地区
17	稲荷台周辺、石神井川緑道加賀周辺
18	板橋区平和公園
19	中台 3丁目サンシティ内
20	三園 1丁目自宅庭
21	蓮根 3丁目 28, 7, 26、新河岸川土手
22	徳丸 6～7丁目、前野 4丁目付近
23	中丸町 56番地
24	リハビリパーク板橋病院 (前野町 1-21-20)
25	北豊島工科高等学校東側周辺 (富士見町 28-1)
26	成増 3丁目
27	成増 3丁目
28	板橋 3丁目 (東板橋公園)
29	中台 1丁目付近
30	三園 1丁目
31	富士見町
32	区立城北交通公園 (坂下 2丁目)
33	高島平 2丁目周辺
34	光が丘公園 (成増 1丁目)
35	前野公園 (前野町 5-1)
36	都立城北中央公園 (桜川 1丁目)

37	熊野町公園（熊野町 23-5）
38	大山公園（栄町 35-1）
39	荒川生物生態園周辺
40	前野町 1 丁目周辺
41	板橋区立平和公園（常盤台 4 丁 42）
42	前野町 5 丁目
43	小豆沢 4 丁目
44	中板橋 30 番周辺
45	都立城北中央公園



観察場所地図

板橋の春の蝶一斉調査会報告

【実施概要】

観察日時	2025年5月18日(日)
観察地域	板橋区立美術館周辺、都立赤塚公園赤塚城址周辺、板橋区立赤塚植物園及び万葉薬用園他
参加者	30名 ・エコポリスセンターかんきょう観察員16名(応募29名) ・指導者「板橋区の蝶を調査する会」会員12名 ・エコポリスセンター職員2名
当日の天気	曇り 24℃

1 当日のスケジュール

8:30	板橋区の蝶を調査する会の会員集合 受付開始(区立美術館前・トンボ池) 受付事務(エコポリスセンター)
8:45	エコポリスセンター挨拶、蝶の会メンバー紹介、 班編成・リーダー確認、観察シート記入説明等
9:00	観察場所：班別に赤塚城址・赤塚植物園等を観察
11:10	まとめと挨拶 ・観察データ班ごとの集計・発表 ・アンケート
11:30	・終了

2 観察コース・時間(9:00～11:10)

赤塚城址⇄赤塚植物園(コース例)

区立美術館周辺⇒溜池公園・郷土資料館脇⇒新規開設公園⇒赤塚城址・バッタ広場及び周辺⇒城址梅林⇒赤塚植物園⇒万葉薬用園・農業園⇒区立美術館横。

3 班編成等

3班編成とし、各班の参加者約6名、蝶の会の指導者4名程度を配置した。蝶はネットで補獲又は静止・飛翔(種の判別が可能であれば)している蝶について種等の確認をし、配布したA4「板橋区内で見られる蝶」の写真で説明し、参加者の理解を深めた。また、食草と幼虫について話を交えて解説した。なお、補獲し確認し終わった蝶については、順次リリースをした。

【観察結果】

当日1～3班で確認した蝶(幼虫を含む)は全部で13種であった。詳細データはエクセルファイルに記載した。

確認した蝶の科及び種は以下の通りである。

アゲハチョウ科

- ①アオスジアゲハ
- ②アゲハ（成虫と幼虫）
- ③カラスアゲハ
- ④クロアゲハ
- ⑤ジャコウアゲハ（幼虫）

シジミチョウ科

- ①ヤマトシジミ

シロチョウ科

- ①モンシロチョウ

タテハチョウ科

- ①アカボシゴマダラ
- ②キタテハ
- ③コムスジ
- ④ツマグロヒョウモン
- ⑤テングチョウ
- ⑥ヒメジャノメ

【参加者の感想】

- ・蝶等昆虫は天候に大きく影響されるため、有志でもいいので曜日や時間帯を変えて3~5回の一斉調査（希望者）をやってほしい。
- ・今回はあまり蝶の種類は多く見られなかったが、良かった。又、参加者の中に食草に詳しい人もいて大変良かった。
- ・全く蝶に興味がなかったが、羽の表裏の見方、オスとメスの見分け方など、おもしろかった。一人で観察はまだハードルが高いように思われる。
- ・蝶の会の方、エコポリの方、ありがとうございました。楽しく観察できました。
- ・三回目の参加ですが、1年に1度ではなかなか名前を覚えられません。自分で積極的に出かけてみる必要があると痛感しました。
- ・参加してよかった。間近で見ないとわからないと思った。
- ・ツマグロヒョウモンなどめずらしい蝶を見られて良かった。シジミの数が思ったより少なく残念。安全の為か雑草など刈り取られた影響？
- ・雨上がりの散策は気持ち良く、植物（食草）と共に蝶を教えていただき観察でき、今まで見ている蝶でも今日の観察で美しさ等発見（再確認）でき、楽しかったです。班での行動で会話しながらも、又違う角度からのおもしろさがわかり、すごい有意義な時間でした。
- ・食草とチョウについて細かな説明あり、チョウをさがすポイントを理解することができました。ありがとうございました。

2025年5月18日(日)蝶観察写真



アゲハ



ジャコウアゲハ幼虫



カラスアゲハ



モンシロチョウ



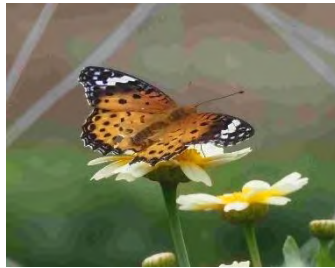
アカボシゴマダラ



アカボシゴマダラ白化型



コミスジ



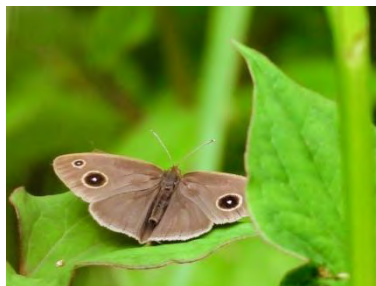
ツマグロヒョウモン♀



ツマグロヒョウモン♂



テングチョウ



ヒメジャノメ



ヤマトシジミ



一斉調査会の様子

II. 自由研究

毎年、かんきょう観察員が自然環境等についてご自分で興味を持ったことを自由に研究し、報告してくださっています。

今年度は、6名のかんきょう観察員の方から、レポートをお寄せいただきました。以下は、自由研究テーマの一覧です。

表 2-3 令和 7 年度 かんきょう観察員 自由研究テーマ一覧（敬称略・50 音順）

氏名	令和 7 年度自由研究テーマ	掲載ページ
筏井 洋之	板橋区のカメモシ目アブラムシ類の一年間 -2025 年-	24
上 蘭 明	谷端川遊歩道公園の植物	26
遠藤 周次	住宅(南町住宅)に飛来する鳥達	32
大松 直如	令和 7 年 石神井川 中板橋付近における カワセミの観察記録	33
黒木 満生	「板橋区平和公園・へいわ池」カモの飛来数調査・他	39
佐藤 滋子	高島平緑地帯で見つけた寄生植物	40

レポートはかんきょう観察員の方々からいただいたものを原文のまま掲載しております。
なお、掲載の都合上、いただいたレポートの一部を割愛させていただいている箇所もあります。
原本は、エコポリスセンター1階「環境情報資料室」で自由に閲覧できますので、ぜひご覧ください。

「板橋区のカメムシ目アブラムシ類の一年間 -2025年-」

篠井 洋之

テーマ	板橋区のカメムシ類の一年間 — 2025年 —	調査日	2025年4月1日 ~ 2025年12月28日
-----	----------------------------	-----	----------------------------

昨年はカメムシ目のアブラムシ類を観察しました。今年は板橋区のカメムシ目のカメムシ類を一年間観察しました。観察地域は昨年と同じく、西武公園とその周辺、徳丸地区、赤塚公園とその周辺です。分類は全国農村教育協会の「日本茶色カメムシ図鑑」(1993年初版)、「同第2巻」(2007年改訂版)、「同第3巻」(2012年改訂版)に拠りました。カメムシ目は現在、腹吻亜目(アブラムシ類など)、頭吻亜目(セミ類など)、翼翅亜目(カメムシ類など)に分類されています。今年は頭吻亜目(カメムシ類など)の中の「陸生カメムシ」であるトコジラミ下目とカメムシ下目を列表にしました。これらの2下目に含まれるクシバヤムシ上科は日本で74種、カスミカメムシ上科は日本で400~500種、トコジラミ上科は世界で600種以上、サンガメ上科は日本で120種、ナガカメムシ上科は日本で290種、ヘリカメムシ上科は日本で44種、カメムシ上科は日本で140種が報告されています。

下目	上科	科	種名(和名)	見つけた場所
トコジラミ下目	クシバヤムシ上科	クシバヤムシ科	アワダチソウクシバヤムシ	セイヨウアワダチソウ、オオアザミ、葉、花
			セゴガラシクシバヤムシ	セゴガラシ、花
カスミカメムシ上科	カスミカメムシ科	コシロイシビカスミカメムシ	ツツジ、ソメイヨシノ、葉裏	
		スズカシクシカスミカメムシ	フユウ、葉裏	
		ヤマシロアサカスミカメムシ	オオアザミ、ヤマガラシ、シソ科、花	
		ハギノミカスミカメムシ	シガ、葉	
トコジラミ上科	マキバカスミカメムシ科	イネノソビドリカスミカメムシ	オオアザミ、ヒメジョオン、ヒメムシコ、花	
		シナミマキバカスミカメムシ	シソ科、花	
サンガメ上科	サンガメ科	コヒメハナカメムシ	エノコログサ、葉	
		ヒメハナカメムシ	ヒメジョオン、エノコログサ、44コグサ、花、肉食性	
カメムシ下目	ナガカメムシ上科	フロキノウエナガカメムシ	ヒメジョオン、エノコログサ、ヤマガラシ、花、肉食性	
		コヒメハナカメムシ	オオアザミ、ヒメジョオン、ヤマガラシ、花、肉食性	
カメムシ上科	マルカメムシ科	ヒメハナカメムシ	石の下、肉食性(ヤブダシ) (2023年11種誌)	
		アサカメムシ	フス、葉裏、肉食性	
		シマカメムシ	ツツジ、葉裏 (164種目録中)、アザミ、花、肉食性	
		フロキノウエナガカメムシ	クズ、葉裏、葉	
		コヒメハナカメムシ	エノコログサ、葉	
		ヨツボシヒメハナカメムシ	エノコログサ、葉	
		サビヒメハナカメムシ	エノコログサ、葉	
		イナゴクサヒメハナカメムシ	エノコログサ、葉、LEDの灯	
		ヤブヒメハナカメムシ	ツツボ、花上 (2024年11種誌)	
		オオヒメハナカメムシ	糖蜜の葉、アザミ (2023年11種誌)	
		オオヒメハナカメムシ	糖蜜の葉、新野肉の葉、糖蜜の葉 (2023年11種誌)	
		ヒメハナカメムシ	アメリカセンダングサ、花	
		ヒメハナカメムシ	オオアザミ、エノコログサ、44コグサ、花	
		ヒメハナカメムシ	ヒメジョオン、エノコログサ、花	
		ヒメハナカメムシ	44コグサ、エノコログサ、ヒメジョオン、花	
ヘリカメムシ上科	ヘリカメムシ科	ヤマガラシ、花上		
カメムシ上科	マルカメムシ科	イトカメムシ	ヤマガラシ、オオアザミ、花、ヒメジョオン	
		アサカメムシ	ハルジョオン、オオアザミ、花	
		ヤマシロアサカメムシ	シソ科、花	
		アサカメムシ	オニノシ、花	
		スズカシクシカメムシ	オオアザミ、オニノシ、ヤマガラシ、花	
		ヒメハナカメムシ	フコ、葉 (2024年11種誌)	
		ヤマシロアサカメムシ	フス、葉、ヤブダシ、葉裏	
		ハルカメムシ	クズ、葉裏 (2024年11種誌)	
		ヒメハナカメムシ	キレヤシ、ドウダシ、ヤマアザミ、ヒメジョオン、葉裏、葉	
		マルカメムシ	フス、葉、葉裏	
		ヒメハナカメムシ	新野肉の葉、アザミ (2023年11種誌)	
		ツツボカメムシ	新野肉の葉、糖蜜の葉 (2023年11種誌)	
		イヌムシ	イヌムシ、葉	
		ヤマシロアサカメムシ	ムササビ、カワラ、葉裏、葉	
		ヤマシロアサカメムシ	マツヨイグサ、ナツメカン、ヤブダシ、葉裏	
ヒメハナカメムシ	サルズベリ、花、葉			
ヒメハナカメムシ	44コグサ、花、シマズクノヒエ、葉			
ヒメハナカメムシ	エノコログサ、シマズクノヒエ、葉			
ヒメハナカメムシ	アカカメムシ、葉裏			
ヒメハナカメムシ	フス、葉、トクサシロコ、花、ツツボ、花上			
ヒメハナカメムシ	バラ科の葉、ヤブダシ、葉裏			

「谷端川遊歩道公園の植物」

上 蘭 明

自由研究報告書

テーマ 谷端川遊歩道公園の植物
調査期間 令和 7 年 4 月～令和 8 年 1 月 19 日

1. 目 的

谷端川遊歩道公園は、板橋区と豊島区との区界を流れる谷端川を暗渠にして造られた公園である。私にとっては、14 年間毎日愛犬と散歩に訪れた公園である。

犬が他界した後、足が遠のきがちになっていたが、四季折々に咲く草木の花々の下を元気に楽しそうに歩く愛犬の姿を思い出して、つい足を運んでしまう懐かしい場所でもある。

そこで、今年は「かんきょう観察員」登録を機に、この公園に咲くたくさんの草木の花々の名前や開花・結実の時期を観察・記録し、身近な自然環境の変化を実感するとともに自然に親しむ機会にしようと思った。そして、できれば令和 8 年度の「谷端川遊歩道公園 植物カレンダー」を作ってみようと思い、観察をスタートした。

2. 方 法

- ① 月に 2 回(初旬と中旬)現地観察し、1 年を通じて記録する。
- ② 1 年間観察を続けた結果を、草本類・木本類ごとに一覧表にまとめる。
- ③ 写真記録も残す。
- ④ 観察記録及び写真等を利用し、「平成 8 年度 谷端川遊歩道公園の植物カレンダー」を作成する。

3. 観 察 結 果

- ① 観察植物と開花時期について
資料 1～4 観察植物(草本類)1・2 (木本類)1・2
- ② 観察植物写真について
資料 5・6 草本類抜粋 24 種 木本類抜粋 24 種
- ③ 「谷端川遊歩道公園の植物カレンダー」について
資料 7～15 カレンダー 4～12 月

4. 考 察

- ① 私の観察だけでも草本類 63 種、木本類 48 種の観察が出来たように、多くの植物が植栽されたり、した草として生えているということを改めて認識した。と同時に、これが来年再来年とどういう風に変化していくのか新たな楽しみも増えた。
- ② 継続観察していると、公園の除草作業や剪定作業が入り、突然観察が中断する残念な時もあったが、同時に公園管理の大切さ大変さもわかった。
- ③ 草木の種や実の観察も行ったが、すぐになくなってしまいうものも多く正確さを欠くような時もあった。原因は主に野鳥の餌になっていることもわかり、公園の役割の多様性もわかった。
- ④ 観察していると、中には個人の趣味の植物を勝手に植えたり、花壇として私物化している場所も見られた。

おまけに、その無責任放置状態のため従来の植栽された植物が枯れてしまうなどの被害を受けている状況には苦言を呈したい。

資料 1

観察植物(草本類)No.1—1

○開花 ◎満開 △残花 □実・種

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	3月	4月
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
01 ノゲシ	○	△	□	□																			
02 ハルジオン	○	○	△	□																			
03 セイヨウタンポポ	○	△	□																				
04 ハナニラ	◎	○	△																				
05 コメツブツメクサ	◎	○	△																				
06 カタバミ	◎	○	○	○	△						○	○											
07 イモカタバミ	◎	◎	○	○	△						○	○											
08 オキザリス (黄)	○	○	△																	○	○		
09 オキザリス (白)	○	○	△										○	○	○	○	○	○					
10 ハハコグサ	◎	△	□																				
11 マツバウンラン	◎	○	△	□																			
12 シャガ	◎	○	△																				
13 ヒメオドリコソウ	○	△																					
14 タツナミソウ	○																						
15 ムラサキカタバミ	○	◎	○	△																			
16 ヒメツルソバ	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				
17 アメリカフウロ	○	△	□	□																			
18 ウラジロチチコグサ	○	△	□	□	□	□	□	□															
19 ナガミヒナゲシ	○	△	□																				
20 ハタケニラ		○	◎	○	△	□	□																
21 トキワツユクサ		○	◎	◎	○	△																	
22 シラン		◎	△	□	□																		
23 ユリオブスデージー		◎	○	△							△												
24 イモカタバミ (白)		◎	○	△							△												
25 メキシコマンネングサ		◎	△																				
26 ヒメヒオウギ		◎	◎	○	○	△																	
27 ニワゼキショウ		◎	△	△																			
28 ユウゲショウ		◎	△		○	△																	
29 マツヨイグサ		○	△																				
30 オニタビラコ		◎	△																				
31 アヤメ		○																					
32 カラスノエンドウ		□	□																				
33 スズメノエンドウ		□	□																				
34 ハクチョウソウ			◎	◎	○	△	□	□	□														
35 ドクダミ			○	◎	△																		
36 タマサンゴ			◎	△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□			

資料 2

観察植物(草本類)No.1-2

○開花 ◎満開 △残花 □実・種

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	3月	4月
	17	1	16	2	16	1	18	3	18	3	19	3	23	5	19	6	19	8	15				
37 ヒルザキツキミソウ			◎	○	○	△																	
38 カンナ (黄)			○	○	◎	○	○	△	□	□	□	○	△										
39 ヒルガオ			○	○	○	○	○	○	○	△	△												
40 ツユクサ			○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	△											
41 インドハマユウ				◎	◎	○	△	□	□	□	□	□											
42 ヒメヒオウギスイセン					○	△	△																
43 モジズリ					○																		
44 アガパンサス					◎	◎	○	△	△	△	△												
45 ヘクソカズラ						◎	○	○	○	○	○	○	△										
46 ゼンテイカ						◎	◎	△															
47 オシロイバナ						◎	◎	◎	○	○	○	○	△	△	□	□	□	□					
48 オニユリ							○	□	□														
49 エノコログサ							○	○	○	○	○	□	□	□									
50 イヌビエ							○	○	○	○	○	□	□										
51 メヒシバ								○	○	○	○	□	□										
52 スジテッポウユリ								○	△														
53 カヤツリグサ									○	○	○	□											
54 ヨウシュヤマゴボウ											□	□	□										
55 ヒガンバナ											◎	○	△										
56 ムラサキオオツユクサ												○	○	○	○	○	△						
57 ヤブラン											◎	◎	○	△									
58 タマスダレ												○	○	△									
59 セイタカアワダチソウ													◎	○	△								
60 ノコンギク													○	○	△								
61 ムシトリナデシコ																○	○	○	○				
62 アロエ																	○	◎	◎				
63 イヌホウズキ																	◎	○	○				

資料 3

観察植物(木本類)No.2-1

○開花 ◎満開 △残花 □実・種

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月			
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
01 オオムラサキ	◎	◎	△																									
02 ドウダンツツジ	○	○																										
03 ハナズオウ	◎	△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□														
04 コデマリ	◎	△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□															
05 ヤマブキ	○	△																										
06 テイカカズラ		○	◎	△																								
07 ナツグミ		□	□	□																								
08 カナメモチ		○	△	□	□																							
09 ハナミズキ		○	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□															
10 ハクチョウゲ		○	◎	◎	○	△																						
11 カリン		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□															
12 シャリンバイ		○	△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□															
13 ビワ		□	□	□	□											○	◎	◎	△	△								
14 ランタナ		○	◎	◎	□	□	○	○	□	○	○	○	△	△	△	△												
15 西洋バラ		○	○	○	○																							
16 ツルニチニチソウ		○	◎	○	△																							
17 ミヤギノハギ			○	◎	○	△										○	○											
18 カキ			○	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□															
19 カシワバアジサイ			◎	◎	○	△																						
20 マルバマサキ			○	○	◎	○	△	□																				
21 トベラ			◎	△																								
22 ヤマトツツジ		○	○	△																								
23 ガクアジサイ			○	◎	○	△																						
24 ユスラウメ			□	□																								
25 ネズミモチ			△	□	□	□	□	□																				
26 ナンテン				◎	○	△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□											
27 アジサイ				◎	○	△																						
28 ツゲ				○	○																							
29 アベリア			○	◎	◎	◎	○	○	△	△	□	□				○	○	△										
30 クチナシ				◎	○	△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□							
31 ピヨウヤナギ				◎	△																							
32 キンシバイ				◎	△																							
33 クチナシ (八重)				◎	△	□																						
34 ムラサキシキブ				◎	○	△	□	□	□	□	□	□																
35 ムクゲ				◎	◎	○	○	○	△	△	△																	
36 ノウゼンカズラ				◎	◎	◎	○	○	○	△																		

資料 4

観察植物(木本類)No.2—2

○開花 ◎満開 △残花 □実・種

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	3月	4月
	17	1	16	2	16	1	18	3	18	3	19	3	23	5	19	6	19	8	15				
37ハゼノキ							□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□						
38サルスベリ							○	◎	◎	◎	△	△	□	□	□	□							
39ピラカンサ							△	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□					
40モミジアオイ									○				○										
41モチノキ								□	□	□	□	□	□	□	□	□	□						
42モクレン												◎	○	狂い咲き?									
43キンモクセイ													○	◎	△								
44ギンモクセイ													○	△			□	□	□				
45ヤツデ														○	◎	◎	◎	○	□				
46サザンカ																○	○	◎	◎				
47クコ																□	□						
48クサボケ																		○	◎				

資料 7



		日	月	火	水	木	金	土
2026 4月					1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			

資料 8



		日	月	火	水	木	金	土
2026 5月							1	2
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							

資料 9



		日	月	火	水	木	金	土
2026 6月			1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					

資料 10



		日	月	火	水	木	金	土
2026 7月			1	2	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		

資料 11



		日	月	火	水	木	金	土
2026 8月								1
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

資料 12



		日	月	火	水	木	金	土
2026 9月				1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				

資料 13



		日	月	火	水	木	金	土
2026 10月						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	

資料 14



		日	月	火	水	木	金	土
2026 11月		1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	27	28	29	30	31	

資料 15



		日	月	火	水	木	金	土
2026 12月				1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			

「住宅(南町住宅)に飛来する鳥達」

遠藤 周次

テーマ	住宅(南町住宅)に飛来する鳥達	調査日	R6 R7	16 17	年	月	16 17	日	
	<p>板橋区南町界隈でもここ5年くらいで緑が大巾に少なくなってきました。大きな樹木が点在し幼稚園が閉園となり、樹木が伐採されたり、50~60坪くらいの緑の庭がる階建の住宅(3~4件)となったりと寂しいです。住み手も減りまじしね、...</p> <p>上記のことも原因でしょう鳥の流布が変わってきたと思います。数も種類も飛来する鳥数も...。狭い地域です。このような状況ですから天変地異はもちろし、酷暑もともなう温暖化等...。そして世界では内戦や戦争等...。地球が熱くなるというよりカンカンに焼いていよと思えます。近い将来人間に対して動植物の大反撃が起こるかも知れません。大地震や火山の噴火にもともなう勝てません...</p> <p>住宅の1階に住んでますので、12月~2月末までの厳冬期のみ、ミカン、柿、リンゴ、キウイ、ヒヨドリ、米等をベランダに置いておくと毎日オナカをすかした、メジロ、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、シジュウカラ(小生のアゴロ、シジュウカラ)、ツグミ(渡り鳥)等がお食事に来てます。</p>								
A	毎日くる鳥	<p>スズメ、メジロ、シジュウカラ、キジバト</p> <p>↳数羽で</p> <p>↳2羽で</p>							
B	週に何回か	ムクドリ、セグロセキレイ、ドバト、カラス(ハシブト)							
C	夏以外	ヒヨドリ、渡り鳥に分類されますが温暖化の影響からか渡らないものもいます							
D	冬前後	<p>ツグミ、ジョウビタキ、カラワヒワ</p> <p>↳ウチケツも飛来するが、冬はシジュウカラのよう</p> <p>↳ナツバリの意識、強い、ピラカンサの穴大好き</p> <p>↳草木の穴大好き、ヒヨドリはともなう好き</p>							
E	春~秋	ツバメ、南界隈でも巣作り減っています。理由は巣材、エサなど							
F	忘れなかった 見逃した	<p>コゲラ、モズ、シメ、ウグイス、ハヤブサ。(数年前見えた鳥)</p> <p>↳キツキ類、カラ類(シジュウカラ)は木と木の隙を口で(クツキ)でツツキますがよく脳振盪をおこさないうものだと感じます</p>							
G	近隣	<p>西光院(板橋区の七福神の一つ) オナカ、ウグイス、ホウセイインゴ等も見られます</p> <p>↳冬場の地鳴きも聞かれます</p> <p>ホウセイインゴは南方の外来種ですが温暖化も含め耐性ついて数をふやしています</p>							
(山にいるより住みやすいのかな!!)									
*住宅の庭にはタヌキ、ハクビシン、アライグマも時々散歩?に見えます									

「令和 7 年 石神井川 中板橋付近におけるカワセミの観察記録」

大松 直如

テーマ	令和 7 年 石神井川 中板橋付近における カワセミの観察記録	調査日	2025 年 3 月～12 月
<h3>1.はじめに</h3> <p>カワセミ(学名 <i>Alcedo atthis</i>)は「清流の宝石」「溪流の女王」などとも呼ばれ水辺に生息し魚類、エビ類、昆虫等を捕食する。そのため水辺に十分な生態系が保たれる場所に生息する。</p> <p>1970 年代、一時カワセミは都内から姿を消している。河川の汚染によりエサが川で採れなくなった、コンクリート護岸により土の崖に巣穴を作れなくなったのが主な理由とされる。その後1980年代後半あたりから皇居などでも観察されており、板橋区を流れる石神井川においても 2010 年代頃には姿を見せて繁殖まで行われているようである。</p> <p>2021 年春、筆者は偶然石神井川にカワセミを見かけて、しかも中板橋付近で繁殖しているということを知りました。以降個人的な観察を続けています。</p> <p>かんきょう観察員として本年度より活動させていただきましたが、一般のただの「カメラ持っているおじさん」から視点を変えて報告としてまとめたいと思います。</p>			
<h3>2. 観察ポイントの概要</h3> <p>石神井川下流部、川越街道あたりから下流、国道 17 線近くの板橋区立氷川つり堀公園あたりまでを観察エリアとする。またこのエリアを以下の3ポイントに分け観察していく。</p> <p>このエリアは中板橋付近で繁殖するつがい 1 組のなわばりエリアである</p> <p>A 川越街道～東武東上線鉄橋付近、 上板橋第一中学校横付近の流れには中心部分にコンクリートの構造物があり 川の流れに変化をもたらす。</p> <p>B 東武東上線鉄橋下流～中根橋付近 ところどころ植生ブロックが設置されており草木の生える箇所が見られる。植生ブロックによって川の流れが緩くなる箇所もあり、水草、藻も生えるところは水生生物の隠れ家になりやすい。 川には小エビ(カワリヌマエビ属)が繁殖しておりこの場所で見られる、カワセミ、カワウ、サギ類等の鳥類、ギバチ、アブラハヤなどの魚類、スッポンなどの餌となっているとみられる。 カワセミはこの場所のコンクリート壁の水抜き穴の一つを利用して巣を作り、繁殖している。</p> <p>C 中根橋下流～氷川つり堀公園付近 下流の北区滝野川の紅葉橋付近の縄張りでは抱卵まで行うがヘビに襲われヒナが育たなかったという話も聞いた。 また皇居、赤坂御所においても造巣、抱卵をするがヘビなどで襲われ巣立たない例も多い。これらに比べほぼ安定して繁殖期 1 期間内で 2 回～3 回、1 回に 1～4 羽程度巣立つ中板橋の巣穴はかなり優秀なポイントといえる。住宅地のど真ん中で外敵が少なく川底からほぼ垂直にせりあがる川岸は鉄壁の防御(コンクリートの巣穴だが)であり、とても子育てに適した環境といえる。 カワセミにとってもこの環境は「子育てのしやすい板橋区」なのかもしれない。</p>			



3. カワセミの1年の行動

石神井川で見られるカワセミは3月終わりから8月あたりに繁殖期を迎え、1期間内2~3回繁殖する。1度の繁殖で幼鳥が1~4羽巣立っていく。

繁殖期の間はほぼこの縄張りエリア内のいずれかで見られBポイントあたりのコンクリートの水抜き穴で営巣繁殖する。ほぼ毎年同じ穴を使用しているようだが2024年春には1度数百m上流部で営巣、繁殖したことがある。冬季にはカワセミは「プチ渡り」をすることがある。

4. 観察記録

2025年における筆者の観察記録について記述します

個人での観察であり、毎日の観察が難しいことと、基本1名での観察記録であるため休日の中心の観察で見逃し等も多々あること、巣立ちなどはじめにおきた日と観察した日に相違が発生する可能性のあることを承知いただきたくお願いします。

3月20日 6:00~7:30(ポイントC)

氷川つり堀公園でメスのカワセミを確認。オスが縄張りに出没してこない。

寒気の影響で暖かくならないためか？

そろそろ繁殖期を迎えていいころ合いのはずだが全くその気なし。

3月22日 6:00~7:00(ポイントB)

カワセミのオス、メスが中板橋付近に見られオスは餌を捕まえるとメスを探して「ちいっ、ちいっ」と鳴くのが聞こえる。メスは呼応するように「ちいっ」と返す。

2羽の距離が近くなると鳴き声の長さも短くなる。しばらくして2羽の距離が目前となって接近した。

しばらくして、メスが営巣場所の例年使っているコンクリート護岸の水抜き穴に入り込み、オスも巣の中に入っていった。巣作りが始まっているようだ。



4月13日 6:00~8:00(ポイントB)

朝6時ごろに氷川つり堀公園でオスを見かけるも
すぐにどこかに行ってしまった。

巢の近くに戻りメスがいたので見張っているとオスが下流の釣り堀公園方向から「ちいーつ」と鳴きながら餌をくわえて飛んでくる。オスが餌を持って求愛給餌。その後求愛給仕は2回成功して1回交尾を確認。



4月19日 7:30~8:00(ポイントB)

カワセミを見かけるが、オス1羽のみ確認。メスは姿が見えないが巢で抱卵を始めた様子。
ちなみにマガモのヒナが2羽生まれて泳ぐ様子が確認できた。

5月31日 6:00~9:00 (ポイントB)

巣から幼鳥が1羽出てきたのを確認。

先週時点でそろそろ出てくるかと思っていたが周囲のカワセミを見ている人の話を合わせると30日あたりに出た様子。前からは少し墨を被ったような色で前面のオレンジの腹部分を見ると植生ブロックを固定するボルトに大きさ、色合いが似ている。

この子が巣から出てきて日が浅いなら巣からあと2, 3羽でてきても不思議ではなさそう。

(その後の話になるが結局この繁殖では1羽のみ確認。)



6月8日 8:00~8:30 (ポイントC)

巣のあたりにカワセミが見つけれなかったため氷川つり堀公園へ行くとオスを発見。モツゴを捕まえていた様子が見られ、魚は頭を自分に向けずに持って上流の巣の方に向かっていった。オスは得げに「ちいっちいっ」という鳴き声を川のコンクリート護岸に響かせて上流の幼鳥に与えるために飛んで行った。

6月15日 16:15~17:30(ポイントB)

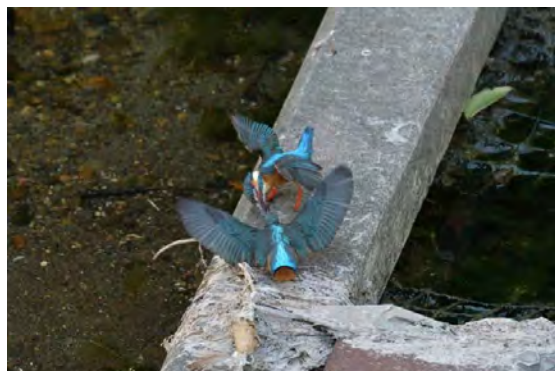
夕方、仕事帰りにいつもの中板橋あたりから氷川つり堀公園の石神井川観察。中板橋付近、川をアオダイショウが上ってきて意外に速く泳ぐのに驚く。あ、カワセミは幼鳥の姿が見えなかったので縄張りから出されたかな？二番子の準備が進んでいるかもしれない。

7月20日 6:00~8:00(ポイントB)

2番子たちが巣から出てきたのを確認。計4羽確認できた。親が餌を運んできて「ちいっちいっ」と幼鳥の居場所を探すと。ここだよ！と「ちいっちいっ」とたどたどしい鳴き声でおねだりをする。

親は頻りに釣り堀公園の魚やその場の小エビを捕まえて子供たちに与えるが、2回連続で餌をもらった幼鳥がきょうだいから「じゅんばんだぞ！」といわんばかりの抗議を受けてケンカする一幕もあり。

しばしの間、カワセミ目当てのカメラマンや散歩の途中で一目見ようと足を止める人たちもいて川岸のギャラリーも増えてこの辺りがにぎやかになった



8月3日 7:00~8:30 (ポイントA ポイントAからC)

までの縄張りを一通り確認したがポイント B でオスの成鳥と幼鳥(性別不明)が確認できたが母親のメスの成鳥とあと 3 羽の幼鳥が確認できなかった。

8 月 11 日 6:30~8:30

ポイント B で父親のオス、母親のメスの成鳥と幼鳥 1 羽を確認したが。前回の状況の判断と周辺で観察する方々のヒアリングによると幼鳥 3 羽は縄張りから追い出されてしまった様子。この縄張りではオス、メスの成鳥と幼鳥 1 羽の構成となったようである。



9 月 14 日 6:00~8:00 (ポイント B)

約 1 か月ぶりに石神井川の鳥を見に行ってきた。ごくたまに見るのだがイソシギという珍客も姿を見せてくれた。

先日のゲリラ豪雨での氾濫危険情報も出ていたけどなんとか乗り切ってカワセミの父子がいた。

幼鳥は川岸のコンクリート壁に飛んで行って何やらやっているかと思ったらよくわからないが

昆虫か何かを捕まえていたようだ。エビ類は洗い流されていなくなってしまったのかな？



11 月 2 日、3 日(ポイント A,B,C) 6:00~7:30

2 日にポイント A で父鳥を確認、ポイント B で母鳥を確認。ポイント C の途中で幼鳥 1 羽確認。

幼鳥は父鳥についていたが親から離れた様子。橋のステップに糞の跡がいくつもついていることから数日前にはこの場所に居ついたと思われる。3 日に同じくカワセミを観察する方に聞くと数日前にカワセミ同士が追いかけてまわしている

との情報もあり、親が幼鳥に縄張りから追い出したと思われる。

11月30日 12月1日 7:00~7:45 (ポイントC)

カワセミは釣り堀公園付近にメス1羽しかいなくなってしまう様子でポイントA,Bのエリアにはカワセミの姿を見かけなくなりました。オス、幼鳥はどこか縄張り外に出てしまった様子。

この現象は例年この時期には姿を見かけることがなくなっているのも特に問題は起きていないと考えられる。川の中ではエビの個体数も減少して餌を取りづらくなっているため餌を求めてどこかに「プチ渡り」をしているのではないだろうか。冬季にだけカワセミが観察される場所がどこかにあるのではないかと勝手に推測している。

12月30日 7:00~7:45 (ポイントB)

巣穴の近くでメスのカワセミを見かけたが、縄張りを行き来するポイントCで直近見かけたメスのようである。縄張りエリア内で見かけたのはメス1羽のみであった。

春先までポイントBからポイントCあたりまでの移動はあると思うが例年の状況も考えると大きく状況は変わることはないかと推測される。

5. 終わりに

カワセミの繁殖は現在、石神井川に限らず、都内いたるところで観察されていますが、本来カワセミは崖の土を毎年自分の嘴で掘り、巣穴を作るとされています。しかしながら目黒の自然教育園内においてもカワセミの繁殖のため土を盛り、崖を整備してカワセミが繁殖しやすいよう整備した例があります。しかしこの場での繁殖行動が観察されなかった。近くの河川でのコンクリート護岸の水抜き穴の「コンクリート造りのタワマン育ち」の繁殖が確認されています。皇居においてもごみ捨て用の穴を掘った壁に巣穴を掘るが水抜き穴も利用した例もあります。板橋区内の私の見るカワセミも毎年同じ水抜き穴を使っています。鳥の環境適応能力には驚かされます。

しかし、論文として公開されているものは少なく、実は都内の河川のコンクリート壁で繁殖しているという「タワマンカワセミ」は専門家でも研究はほとんどなされていない様です。

カワセミたちも都会の環境に適応するため人工物を利用することを学んでいるのですがそれを知っているのは地元で熱心に観察される人達だけのようでまだまだ広く認知されていません。当然最近流行のChatGPTなどAIにおいても都内カワセミの繁殖について調べてみるがまだまだそのような記述も少なくフィールドワークでしか得られない情報がまだまだたくさんあります。

カワセミの繁殖にカワセミが造巣を行うため土で崖を人工的に作る試みも行われている例もありますが、コンクリート育ちのカワセミを考えるとこの方法は最善でもないかもしれません。

このような実態の把握はカワセミに限らず、人々が観察し、まとめることが重要な役割を果たしていくのだと思っています。都市の人間の生活に必要な開発、工事と自然環境の両立にはその土地の中で細やかに自然の正確な把握が必須だと思います。

かんきょう観察員の役割はAIが広く使われるこの世の中だからこそ大きいのだと思います。

「板橋区平和公園・へいわ池 カモの飛来数調査・他」

黒木 満生

テーマ	「板橋区平和公園・へいわ池」カモの飛来数調査・他	調査日	令和7年1月1日～ 令和7年12月31日
-----	--------------------------	-----	-------------------------

〈はじめに〉

毎朝ラジオ体操でこちらの「板橋平和公園」に行きますが、「へいわ池」にカモが来るのでその数を記録してみたいと思いました。「へいわ池」周辺での他の生き物の観察を兼ねています。(過去4年分のデータあり)

日/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	6	0	3	—	0	3	0	1	0	—	7	2
2	3	—	2	—	0	2	0	2	0	0	6	11
3	4	0	—	2	0	—	—	0	0	0	3	3
4	2	0	2	2	2	0	2	2	0	0	0	0
5	3	0	—	2	3	3	1	1	—	0	9	2
6	4	0	2	2	3	6	4	0	0	0	4	11
7	0	2	0	2	1-1	3	3	3	0	0	0	13
8	2	0	2	2	0	0	1-1	2	0	0	7	9
9	0	0※①	2	2	2	0	1	0	0	0	—	10
10	1	0	2	3	—	—	1※④	0	0	0	0	10
11	4	0	2	2	0	—	0	0	0※⑦	0	5	12
12	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	7	9
13	4	1	6	2	5	2	0	1	1	0	2	9
14	3	0	6	2	4	3	1	0	0	0	2	12
15	4	0	4	2	3	3	3	0	※⑧	0	4	0※⑨
16	3	2	—	4	7	0	5	0	0	0	8	11
17	3	2	1	2	—	1	3	0	0	0	0	8
18	2	0	7	4	3	—	5	0	0	0	4	10
19	4	3	—	0	1	2	8	0	0	0	—	8※⑩
20	2	2	6	1	3	2	6	0	1	0	4	12
21	0	2	5-1※②	0	3	2	2	0	0	0	0	3
22	0	3	2	0	3	3	5	0	0	0	10	9
23	0	—	4	0	2	3	1	0	0	10	6	10
24	0	2	2	0	3	0	0	0	0	2	4	—
25	0	2	1	2	1	1	1	0	0	—	8	7
26	0	2	2	1	2	—	0	0	2	—	6	7
27	0	2	0	3-1※③	3	1	2	0※⑤	0	2	8	11
28	0	3	2	0	0	0	0	0	4	2	13	15
29	0	△	—	2	2	—	1	0	1	4	—	14
30	0	△	2	1	—	1	0	0※⑥	0	4	—	12
31	0	△	2	△	3	△	0	0	△	4	△	15

- * 時間は午前6:30前後 ラジオ体操時
- * 左側・中央=カルガモ 右側=マガモ
- * 0=飛来無 —=調査無(雨とか)
- * ()は午後 体操時に雨だったりした時など

- ※① 体操時にコサギが一羽来たがすぐに飛び立った(写真撮影は間に合わなかった)
- ※② 久しぶりにマガモのオスが来た! 前回は昨年の1/28日
- ※③ マガモのオス「エクリプス」が来ていた(この日だけ)
- ※④ 池近くのミズキの葉を食べている「オオミズアオ」の幼虫が居た(幼虫は初)
- ※⑤ 池の近くの笹にウンモンズメ蛾が居た
- ※⑥ 池の近くでイトトンボの交尾が見られた
- ※⑦ 線路脇にネズミが居た
- ※⑧ 平和池に「ゲンゴロウ」(ヒメ・ハイイロ?)が居た 動画あり
- ※⑨ 平和池に金魚が一尾居た
- ※⑩ 平和池の金魚が死んでいた

「高島平緑地帯で見つけた寄生植物」

佐藤 滋子

テーマ 高島平緑地帯で見つけた寄生植物 調査日 令和7年6月20日

ヤセウツボ (高島平入丁目白ツメ草の群生の中に寄生していました)

ヨーロッパ 北アフリカ原産の寄生植物
関東地方や近畿地方などに帰化している。

マメ科のシロツメ草などを中心に キク科や
セリ科にも寄生する。ハマウツボよりホツリ
した感じで全体に腺毛があるのが

特徴で花はややマバラにつき
淡黄褐色で長さ1.2~1.5cm
萼片の先は尾状に長く出る

花期 5月~6月

ヤセウツボ 白ツメ草に
寄生して、知らぬふりして
花さかせ



シロツメ草 (クローバー) マメ科

白い花が球状に密集し 蜜のある場所は外からは見えない。
蜜は小さな花の奥の方にあり 賢いミツバチだけが花びらを
押し広げて蜜を吸います。

シロツメ草は、江戸時代 オランダより 荷物に詰め物として渡来し
その後 明治年間 始め以来 飼料作物として盛んに導入され 各地方に
野生化して 全国に広く普通に見られる。

草花のひかり 稲垣榮洋の抜粋



Ⅲ. 地域自主活動グループ

地域自主活動グループは、かんきょう観察から生まれたグループです。

グループの中で地域やテーマを決めて、身近な自然観察会等の活動を実施しています。

平成 11 年度からできたグループは、今年度で 27 年目を迎えました。

今年度は 6 つのグループが活動を行い、それぞれが独自の活動を継続されています。

表 3 令和 7 年度 地域自主活動グループ活動一覧(敬称略)

名称	テーマ	主な観察場所	活動日	活動回数	代表者	掲載ページ
赤塚公園 自然観察会	野草・樹木・野鳥・ 昆虫・クモの観察	赤塚公園、 赤塚植物園	年 4 回	4	福嶋 信博	42
荒川を 楽しむ会	野草の観察と 名前調べ	荒川河川敷、 生物生態園 周辺	月 1 回 (第 3 火曜日)	12	水野 妙子	43
板橋区の 蝶を 調査する会	蝶の観察 (種類・発生場所)	赤塚公園、 赤塚城址、 赤塚植物園、 万葉薬用園、 荒川河川敷、 光が丘公園、 都立城北中央 公園	3～12 月の毎月 1 回 (主に土曜日・年間 スケジュールによる)	9	神山 健次	44
城北公園・ 四季の会	自然観察、 自然写真の展示、 樹木名板設置	都立城北中央 公園	毎月第 2・ 最終日曜日	21	新井 康之	48
赤塚公園 ニリンソウを 守る会	ニリンソウ自生地及び 生物多様性保全エリア などでの手入れ活動	都立赤塚公園 大門地区、 城址地区、 八丁目の林 沖山地区	・都立赤塚公園 ・ニリンソウ自生地 保護活動、定例会 毎月第 2 日曜日、 手入れ活動 月 1～2 回実施	39	堀田 依利	49
見次の会	花植え、見次だより、 野鳥の観察、樹名板の 作成	見次公園	月に 1～2 回 (主に水曜日)	24	田辺 直美	51

次ページから各グループから寄せられた活動報告を掲載します。グループの詳細な活動報告は、エコポリスセンターの 1 階環境情報資料室やホームページで閲覧できます。

令和7年度 地域自主活動グループ活動報告「赤塚公園自然観察会」

◆メンバー:13名

◆活動状況 年4回 日曜日

回数	開催日	時間	参加者数	回数	開催日	時間	参加者数
1	6月1日(日)	10:00~12:00	9	3	11月16日(日)	10:00~12:00	7
2	10月5日(日)	10:00~12:00	8	4	3月22日(日)	10:00~12:00	3

◆1年間の活動内容

- ・令和7年6月1日は美術館前に集合し、持参した植物やリュウキンカのなかまの資料などで情報交換をしました。その後、美術館前の梅林から郷土資料館の横の道、バッタ広場、赤塚城址公園広場、梅林を歩き観察しました。
- ・令和7年10月5日は高島平図書館前に集合し、持参した植物やキキョウソウのなかまの資料などで情報交換をしました。その後、番場地区、沖山地区を歩き観察しました。
- ・令和7年11月16日は美術館前に集合し、持参した植物やヒガンバナ科アオイ科の資料や観察会で見つけたカメムシの資料などで情報交換した後、郷土資料館の横の道、バッタ広場、赤塚城址公園広場、梅林を歩き観察しました。
- ・令和8年3月22日は美術館前に集合し、各自で持参した資料などで情報交換した後、赤塚公園城址地区や植物園を歩き観察しました。

◆活動風景



◆その他

- ・観察対象は、野草、樹木、野鳥、昆虫、クモ、虫こぶなど何でも観察し、写真などで記録しています。
- ・観察会を始める前に、日頃気になったことや調べたことをまとめた資料や植物、昆虫などの実物を持ってきてお互いに情報交換をしています。

令和7年度 地域自主活動グループ活動報告「荒川を楽しむ会」

◆メンバー: 16名

◆活動状況 月1回 第3火曜日

回数	開催日	時間	参加者数	回数	開催日	時間	参加者数
1	4月15日(火)	10:00~13:00	13	7	10月21日(火)	10:00~13:30	13
2	5月13日(火)	08:00~16:00	8	8	11月18日(火)	10:00~13:00	12
3	5月20日(火)	10:00~12:15	10	9	12月16日(火)	10:00~13:00	10
4	6月17日(火)	10:00~13:00	11	10	1月16日(火)	11:30~13:30	12
5	7月22日(火)	10:00~12:30	7	11	2月17日(火)	10:00~13:00	11
6	9月16日(火)	10:00~13:00	11	12	3月17日(火)	10:00~13:00	9

◆1年間の活動内容

主な活動は、月1回荒川生物生態園周辺での野草の観察です。以下はその他の活動です。

- ・4月 いつもの観察場所より少し上流の笹目橋周辺で、野草観察をしました。
- ・5月 板橋からかなり遡った玉淀の荒川河川敷で、植物観察を兼ねたハイクを実施。
- ・2016年～現在までの野草観察の記録「荒川河川敷で見られた植物」を作成し、エコポリスセンターのHPにも掲載してもらいました。
- ・植物の写真展を2カ所で実施。

実施期間：エコポリセンター7/21~8/31・リサイクルプラザ 3/2~3/31

◆活動風景



玉淀の荒川河川敷 対岸が近い

◆その他

荒川生物生態園周辺で野草の観察をしています。定期的に草刈りは行なわれるものの、自然の植生を見ることができています。

年々生育範囲を広げているもの、以前あったものが見られなくなったものなど、植生の変化がみとれます。最近の過酷な気候条件も加わり、乾燥や暑さに強い種が残っているように思えます。とはいえ、植物の多様性が保たれ共に生きている昆虫や鳥やなど、また人にとっても豊かな河川敷であってほしいと思っています。

令和7年度 地域自主活動グループ活動報告「板橋区の蝶を調査する会」

◆メンバー: 25名

◆活動状況 月1回土曜日(予備日:日曜日)

回数	開催日	時間	参加者数	回数	開催日	時間	参加者数
1	3月22日(土)	10:00~12:00	12	6	9月13日(土)	9:00~11:00	11
2	4月12日(土)	10:00~13:30	11	7	10月4・5日 (土・日)	9:00~13:30	7
3	5月18日(日)	9:00~11:00	12	8	11月1日(土)	10:00~12:45	9
4	6月1日(日)	9:30~13:30	8	9	12月6日(土)	10:30~12:30	10
5	7月5日(土)	9:30~12:00	8				

◆1年間の活動内容

3月~12月の毎月1回蝶の観察会を開催しました。今年は赤塚公園、赤塚城址、赤塚植物園・万葉薬用園、荒川河川敷、光が丘公園、都立城北中央公園を観察しました。蝶の成虫の観察の他生態(卵、幼虫、蛹)の観察も行いました。

今年は、エコポリスセンターからの依頼を受け、5月と9月に環境観察員を対象にした「蝶の観察会」を行いました。

また、エコポリスセンターで5月14日~7月13日まで開催した「蝶の写真展」に協力をしました。

◆活動風景



蝶の写真展



環境観察員対象「蝶の観察会」



観察風景

(1) 観察状況

毎月の観察会の他にメンバーが個人的に観察を行っています。2025年は板橋区内で73回の定点観察を行い(定例観察日以外にも会員個人が観察した観察データを加算しています)44種類の蝶を観察しました。

2025年の観察結果の概要は次のとおりです。図(2025年蝶観察回数)もご覧下さい。

(注) 年間に観察した蝶の種類別合計観察回数です。当日の観察会でアゲハを3回観察しても観察種類としては「1」とカウントします。

- 昨年の観察結果と同様にヤマトシジミ、アゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、が観察回数（注）の多い種類でした。
- 4月19日、ワンド周辺、5月1日荒川陸上競技場上流部でギンイチモンジセセリを確認。
- 赤塚城址のゼフ（アカシジミ・ウラナミアカシジミ・ミズイロオナガシジミ）は1回も確認できませんでした（5月14日～6月8日まで述べ12回観察）。
- 5月7日・8日赤塚城址周辺でウスバシロチョウを昨年に引き続き確認。
- 5月20日、荒川笹目橋上流でアサマイチモンジを確認。
- 6月8日、東京大仏裏でミズイロオナガシジミを確認しました（今年はこの1回だけでした）。
- 6月赤塚5-31、赤塚城址新設公園の近くの個人宅にあった大きな栗の木・クヌギ・コナラがなくなりました。
- 7月20日、9月16日荒川ワンド東側でアサマイチモンジを確認しました。
- 7月30日、8月9日光が丘公園でモンキアゲハを確認しました。
- 9月13日赤塚城址周辺で、10月12日光が丘公園でアサギマダラを確認しました。
- 10月2日、四葉2丁目沖山地区付近で昨年に引き続きクロマダラソテツシジミを確認。
- 今年はホシミスジの確認ができませんでした。
- 板橋区の蝶を調査する会、発足20周年のお祝い会を実施しました。
- （注）観察回数の多かった種



ヤマトシジミ



アゲハ



モンシロチョウ



キタキチョウ

- 観察できた板橋区での希少種と近年確認した種



アサギマダラ（希）



モンキアゲハ（希）



クロマダラソテツシジミ（近）



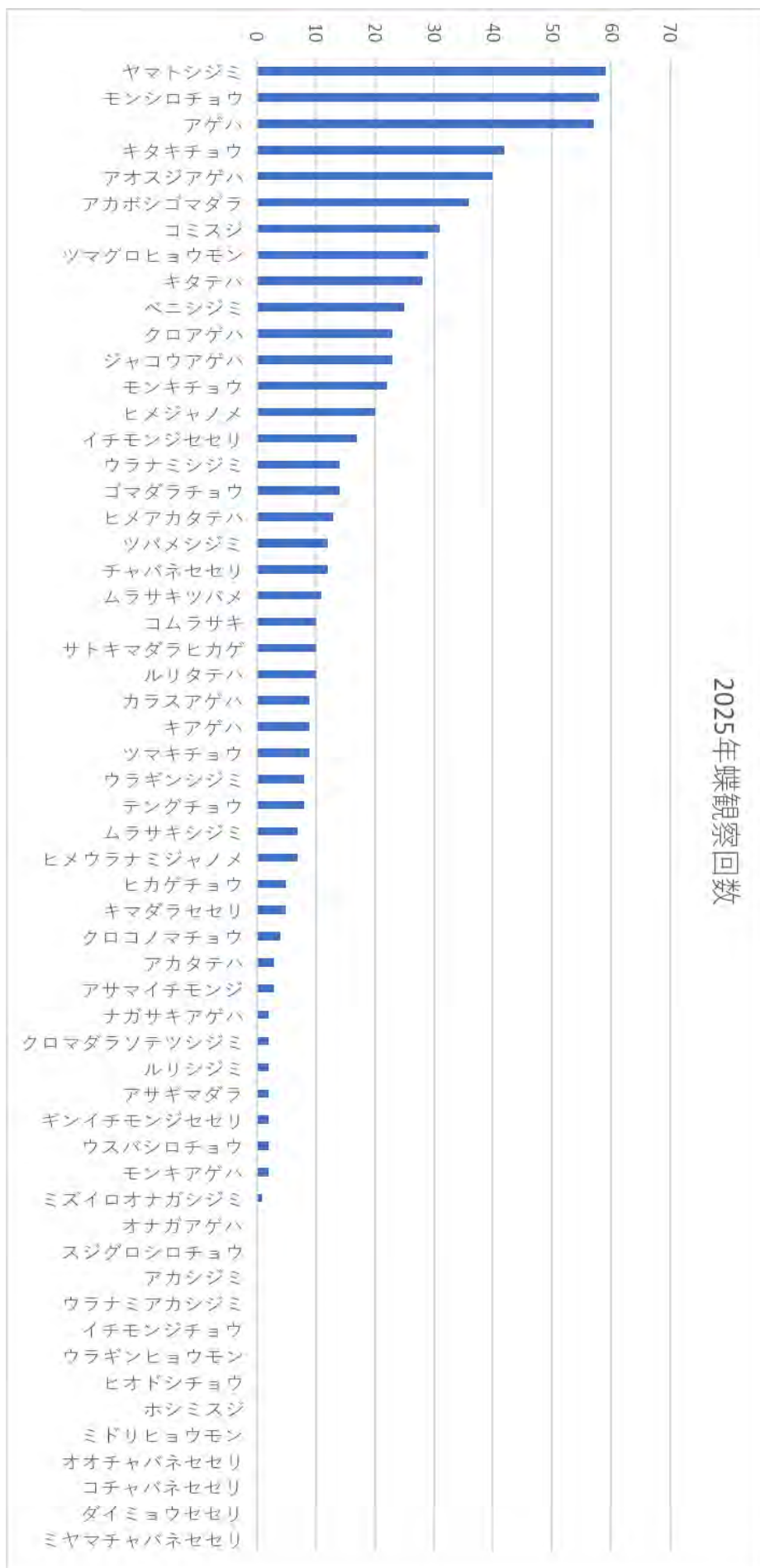
ウスバシロチョウ（近）

◆その他

板橋区の蝶の観察を始めてから 20 年が過ぎました。その間に 57 種類の蝶を観察しました（2021 年に 2 種類の増・2024 年に 1 種類の増）。板橋区は緑が多く、又、荒川河川敷が存在することから観察できる蝶の種類が豊かです。温暖化の影響により観察出来る蝶の種類が増えているようです。一方、河川敷の改修工事やグラウンド化、台風による増水により蝶の棲息する環境が変化し、観察できる蝶の数が減少することがあります。6 年前の荒川の大増水による影響と思われるミヤマチャバネセセリ・ギンイチモンジセセリの減少はやっと回復の気配がうかがえますが、確認は極めてわずかです。一方、赤塚城址周辺に生息しているウラナミアカシジミ・アカシジミは、今年はとうとう観察できませんでした。ミズイロオナガシジミは東京大仏の裏側で 1 回確認できただけでした。ここ数年にわたり赤塚城址周辺のクヌギ・コナラの木が樹木枯れのために伐採されていますので、減少等につながっているようにも感じます。今年は民家にあった大きなクリノキやクヌギ・コナラが撤去され、吸蜜や産卵場所が減少しました。また、赤塚城址周辺で観察されていたダイミョウセセリはほとんど観察できなくなりました。食草であるヤマノイモが公園全体で一斉草刈りのためになくなり、同時にダイミョウセセリが絶滅危機に直面していると思われます。なお、2024 年に板橋区で初めて確認されたウスバシロチョウは 2025 年も確認されました。放蝶の可能性が高いと思われます。

これからも蝶の観察と同時に食草の分布等蝶の棲息状況を調べ、多くの方に板橋区の蝶やとりまく環境について知って頂くお手伝いをしたいと考えております。

2025年蝶観察回数



令和7年度 地域自主活動グループ活動報告「城北公園・四季の会」

◆メンバー: 約 20 名

◆活動状況 月 2 回 第 2 日曜日・最終日曜日

回数	開催日	時間	参加者数	回数	開催日	時間	参加者数
1	4月27日(日)	9:30~12:00	8	12	10月13日(日)	9:30~12:00	7
2	5月11日(日)	9:30~12:00	11	13	11月30日(日)	9:30~12:00	10
3	5月18日(日)	10:00~12:00	4	14	12月28日(日)	9:30~12:00	8
4	6月8日(日)	9:30~12:00	9	15	12月29日(日)	9:30~12:00	9
5	6月15日(日)	10:00~12:00	13	16	1月11日(日)	9:30~12:00	5
6	6月29日(土)	9:30~12:00	5	17	1月25日(日)	13:00~15:00	8
7	7月13日(日)	9:30~12:00	4	18	1月25日(日)	9:30~12:00	3
8	8月3日(日)	9:30~12:00	6	19	2月22日(日)	9:30~12:00	8
9	8月24日(日)	9:30~12:00	5	20	3月8日(日)	9:30~12:00	9
10	9月14日(日)	9:30~12:00	9	21	3月29日(日)	9:30~12:00	7
11	9月28日(日)	9:30~12:00	8				

◆1年間の活動内容

都立城北中央公園が私たちの観察エリアです。夏季を除いて定例観察会を月に2回実施しています。恒例イベントとして6月に公園職員とトンボ池の清掃と生き物調査、8月に桜川小学校児童、父兄と「セミの羽化観察会」も行ないました。さらに5月には公園の自然保護エリア「バッタランド」で増えすぎたイノコヅチ除去作業をしました。

城北中央公園には他の公園に比べてシナノキの仲間が多く植えられています。シナノキと関係が深いタケウチトゲアワフキを5月の観察会で初めて観察しました。背中に長い棘を持つ独特の形状をしていますが、体長8mmと小さな昆虫です。小型の生き物を見つける観察眼を持つメンバーの皆さんによる成果だと思えます。

今年の一斉調査のテーマが「蝶」でしたが、メンバーの蝶への関心が高まりました。城北中央公園では観察例が少ないツバメシジミ、カラスアゲハ、ジャコウアゲハを観察会で見る事ができました。一斉調査は自然観察のレベルアップにつながっています。

◆活動風景



5月25日 タケウチトゲアワフキ



6月15日 トンボ池のかいぼり

令和7年度 地域自主活動グループ活動報告「赤塚公園ニリンソウを守る会」

◆メンバー：28名

◆活動状況

都立赤塚公園ニリンソウ自生地保護活動:(月1~2回)、定例会合、山野草案内活動他				
回数	開催日	時間	参加者数	内容
1-3	4/5(土), 6(日), 12(土)	10:00~12:00	36	2025'ニリンソウ月間(山野草案内)
4	4/13(日)	10:00~12:00	6	地域自主活動報告会@エコポリスC
5	4/28(月)	10:00~12:00	2	赤塚公園友の会
6-7	5/9(金), 11(日)	9:00~16:00	12	グリーンフェスタ出展@赤塚植物園
9	6/8(日)	10:00~12:00	18	自生地手入れ
10-13	6/13(金), 14(土), 21(土), 29(日)	16:00~17:00	4	エコライフフェア出展@エコポリスC
14	6/19(木)	9:00~13:00	1	スキル up 研修受講@都立神代植物公園
15-16	6/23(月), 27(金)	10:00~12:00	4	赤塚公園友の会、生物多様性連絡会
17	7/13(日)	10:00~12:00	18	安全講習と自生地手入れ
18	9/7(日)	10:00~12:00	18	自生地手入れ
19	9/22(月)	10:00~12:00	2	赤塚公園友の会
20	10/19(日)	10:00~12:00	16	自生地手入れ
21-23	11/9(日), 16(日), 23(日)	10:00~12:00	32	自生地手入れ
24	11/25(火)	10:00~12:00	2	赤塚公園友の会
25-27	12/7(日), 14(日), 21(日)	10:00~12:00	27	自生地手入れ
28	1/11(日)	10:00~12:00	13	自生地手入れ
29	1/22(木)	9:00~12:00	1	北野小学校 SDGs 出前授業
30-32	2/6(金), 7(土), 8(日)	9:00~16:00	16	環境なんでも見本市出展
33	2/15(日)	10:00~12:00	36	自生地手入れと打合せ(高島高校と協働)
34-36	1/26(月), 2/16(月), 3/23(月)	10:00~12:00	6	赤塚公園友の会、生物多様性連絡会
37	3/8(日)	10:00~12:00	21	ニリンソウ月間前の観察会
38	3/28(土)	10:00~12:00	11	2026'ニリンソウ月間(山野草案内)
39	3/29(日)	10:00~12:00	14	2026'ニリンソウ月間(山野草案内)

◆活動内容(ニリンソウ自生地他の手入れ活動、安全講習、打合せ、友の会定例会他)

「赤塚公園ニリンソウを守る会」は、1978年以來、都立赤塚公園、板橋区及び関係団体と連携し、ニリンソウ他の希少な動植物含めた山野草保護活動とその啓発活動を継続している。

・活動を次世代につなぐ為、東京都や板橋区関係団体と連携、子供さん対象に植物に接する活動、「北野小学校でのSDGs出前授業」、「高島高校生との協働作業」他を行い、動植物を愛おしむ活動行っている。

・区内外のボランティア及び支援団体と連携し、新規会員募集の為の活動紹介他を、継続している。

・東京都の「都立公園拡張の取組」、「公園内の生物多様性事業」、「公園内のナラ枯れ対応」他の課題に、多様な動植物を育む活動を行う立場で、関係団体と共に参画している。

・板橋区とは、「環境基本計画ワークショップ」参画、「SDGsプラットフォーム事業」参画、エコポリスセンター事業(「環境観察活動」参加、「エコライフフェア」、「環境なんでも見本市」への出展)、「赤塚植物園(Green Festa出展)」他を通じ、連携を深めている。

◆活動風景



↑ニリンソウ自生地手入れ(10月19日)
活動体験希望者交えた、手入れ風景



↑赤塚植物園グリーンフェスタ出展(5月11日)
子供さんの植物理解深めた(シュロの葉でカタツムリ作り)。



↑エコポリ「環境なんでも見本市(2月7日、8日)」
子供さん、親御さん交え植物への理解深めた。

赤塚公園ニリンソウを守る会
⇒#15. 陸の豊かさを守ろう
⇒#11. 住み続けられる街作り

活動の概要
1. 1978年 ニリンソウ大群落発見@赤塚公園大門地区
2. 1980年「区の花ニリンソウを保存する会」発足。
3. 2020年「赤塚公園ニリンソウを守る会」に名称変更。
※ニリンソウ以外の準絶滅危惧植物と多様な生物が息づく環境を残すこと。 自生地の手入れ：月1~2回
ニリンソウ月間(観察会)：3月下旬~4月上旬土、日

ニリンソウの一年

子供や高校生連と、植物に触れ合う機会

ニリンソウ自生地

4/27 4/29(4月)、4/28/4/29、4/27~4/28(18日)

↑北野小学校「SDGs 出前授業(1月22日)」
山野草保護通じ、「陸の豊かさ」守る活動を紹介。



↑「ニリンソウ月間(3月下旬~4月中旬)」のガイド風景
希少な動植物生育環境保護へ関心高めた。



↑高島高校との手入れ協働作業(2月15日)
作業通じ、社会参加や環境保護へ関心高めた。

令和8年(2026年)4月1日から令和9年(2027年)3月31日までの活動予定回数

名称	テーマ	主な活動場所	活動回数	代表者
赤塚公園ニリンソウを守る会	・赤塚公園で山野草他多様な生物の保護活動。	都立赤塚公園 大門地区 沖山地区 八丁目の林	・山野草保護活動と観察(10回) ・赤塚公園他の会合(9回) ・山野草ガイド(6回) ・エコポリ、植物園他の関係団体のイベント参加(8回)	堀田依利

令和7年度 地域自主活動グループ活動報告「見次の会」

◆メンバー: 14名

◆活動状況 月1~2回 水曜日

回数	開催日	時間	参加者	回数	開催日	時間	参加者
1	4月9日(水)	9:00~10:00	6	13	8月27日(水)	8:00~9:00	8
2	5月14日(水)	9:00~10:00	8	14	9月7日(日)	8:30~10:30	11
3	5月28日(水)	8:00~9:00	12	15	9月10日(水)	8:00~9:00	8
4	6月4日(水)	8:30~9:30	9	16	9月17日(水)	8:00~9:00	5
5	6月7日(土)	8:15~9:45	12	17	10月9日(水)	9:00~10:15	9
6	6月20日(水)	8:00~9:00	6	18	10月22日(水)	8:30~9:30	5
7	7月2日(水)	8:00~9:00	7	19	10月29日(水)	8:00~10:00	7
8	7月9日(水)	8:00~9:00	9	20	11月6日(水)	9:00~10:30	8
9	7月23日(水)	8:00~9:30	7	21	11月11日(水)	9:00~17:00	8
10	7月30日(水)	13:00~17:00	9	22	12月17日(水)	13:00~15:00	7
11	8月6日(水)	8:00~9:00	6	23	1月14日(水)	9:00~10:00	7
12	8月20日(水)	8:00~9:00	9	24	2月4日(水)	9:00~11:00	10

◆1年間の活動内容

基本的には月一回の活動ですが、今年は猛暑のため水やりの回数が増えました。

11月に研修旅行として石神井公園を散策しました。

◆活動風景



◆その他

みつぎ便りもおかげさまで4月で235号です。小さな積み重ねでここまでできました。会員の高齢化が気になりますが、それぞれが出来ることを無理なくやっていくつもりです。

第三編 かんきょう観察全体説明会と自然観察会の報告

I. かんきょう観察全体説明会の報告

- 開催日：令和7年4月13日(日)
- 開催時間：13時30分～16時00分
- 開催場所：エコポリスセンター 視聴覚ホール
- 出席者：かんきょう観察員31名
(当日までの令和7年度登録者60名：うち、新規10名)



1. 開会挨拶

エコポリスセンター 館長：保科 整

2. 事業担当者紹介

エコポリスセンターかんきょう観察担当：
志賀 嘉子・佐藤 淳平
補助：岡本 美佳



3. 令和6年度一斉調査会「板橋区の野草」の調査結果について

目的：板橋区の野草調査 講師・分析：かんきょう観察員 木村松夫氏

調査概要：①4月28日(日)の新高島平駅から都立赤塚公園にかけての街路と都立赤塚公園での春の野草一斉調査会は、24名の参加者で実施。②10月6日(日)での春と同じ場所での秋の野草一斉調査会は22名の参加者で実施。両方で211種確認。③地域調査(各自の自宅周辺)は春：5月1日～5月31日58名参加、秋：10月1日～10月31日47名参加。春は485種、秋は427種が記録されました。

・詳しくは令和6年度かんきょう観察報告書のp.6～22をご覧ください。

★調査・報告をしていただいた58名の皆様、ありがとうございました。

4. 令和7年度事業概要の説明

◎「春の蝶一斉調査会」は春(5/17)、「秋の蝶観察会」は(9/13)に区立美術館～赤塚城址周辺で実施予定。雨天の場合は前日判断で参加予定者に順延の連絡をします。メール FAX の受取の旨を必ずご連絡ください。

◎佐々木洋先生の野鳥を中心とした自然観察会(2026/1/18)(雨天決行)は応募締切以降、当選者にメール送付。

◎館内展示「板橋区の蝶写真展」(5/14～7/13)と「荒川の植物写真展～春から夏～」(7/20～8/31)は9:30～11:30、13:40～16:00 人気投票参加者にしおりを差し上げます。ぜひご来館ください。

◎年間の事業の申し込みについて※事業の詳細は当日配布の「令和7年度かんきょう観察事業の概要」をご覧ください。締め切り日までにお申込みください。秋の蝶観察会と佐々木先生の自然観察会は当日参加証をお持ちでない方はご参加いただけませんので、ご了承ください。

◎蝶の定点調査にご協力をお願いします。地域調査票に見つけた蝶を記入しご提出ください。

5. 令和6年度地域自主活動グループの活動報告

1年間の活動の成果をグループごとに発表していただきました。

発表を聞いた方が、新たにグループに参加しました。発表者の皆様、発表のご準備をありがとうございました。

地域自主活動グループの活動報告と自由研究は当館の Web ページでも閲覧できます。是非ご覧ください。

活動報告 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

自由研究 <https://itbs-ecopo.jp/wp-content/uploads/2024/05/R5jiyuukenkyuu.pdf>



地域自主活動グループの発表者の皆様

◎休憩時間に、自由研究と過去の事業報告書の閲覧をしていただきました。

6. 令和7年度地域自主活動グループの編成

今年度も6グループでスタートいたしました。令和6年度かんきょう観察報告書の p. 39～48 をご覧いただき、新規に地域自主活動グループに参加なされたい場合はエコポリスセンターにお問い合わせください。



赤塚公園自然観察会



赤塚公園ニリンソウを守る会



見次の会



板橋区の蝶を調査する会



城北公園・四季の会

II. 板橋の秋の蝶自然観察会報告

執筆：板橋区の蝶を調査する会

【実施概要】

観察日時	2025年9月13日(土)
観察地域	板橋区立美術館周辺、都立赤塚公園赤塚城址周辺、板橋区立赤塚植物園及び万葉薬用園他
参加者	24名 ・エコポリスセンターかんきょう観察員11名(応募者26名) ・指導者「板橋区の蝶を調査する会」会員11名 ・エコポリスセンター職員2名
当日の天気	曇り時々晴れ・雨 27℃

1 当日のスケジュール

8:30	板橋区の蝶を調査する会の会員集合 受付開始(区立美術館前・トンボ池) 受付事務(エコポリスセンター)
8:45	エコポリスセンター挨拶、蝶の会メンバー紹介、 班編成・リーダー確認、観察シート記入説明等
9:00	観察場所：班別に赤塚城址・赤塚植物園等を観察
11:10	まとめと挨拶 ・観察データ班ごとの集計・発表 ・終了挨拶
11:30	アンケート・終了

2 観察コース・時間(午前9時00分～午前11時10分)

赤塚城址⇄赤塚植物園(コース例)

区立美術館周辺⇒溜池公園・郷土資料館脇⇒新規開設公園⇒赤塚城址・バッタ広場及び周辺⇒城址梅林⇒赤塚植物園⇒万葉薬用園・農業園⇒区立美術館横。

3 班編成等

3班編成とし、各班の参加者約4名、蝶の会の指導者3～4名程度を配置した。

蝶はネットで補獲又は静止・飛翔(種の判別が可能であれば)している蝶について種等の確認をし、配布したA4「板橋区内で見られる蝶」の写真で説明し、参加者の理解を深めた。また、食草と幼虫についての話を交えて解説した。なお、補獲し確認し終わった蝶については、順次リリースをした。

観察結果

当日1～3班で確認した蝶(幼虫を含む)は全部で22種であった。詳細データはエクセルファイルに記載した。

確認した蝶の科及び種は以下の通りである。

アゲハチョウ科

- ①アオスジアゲハ（成虫・幼虫）
- ②アゲハ（成虫と卵・幼虫）
- ③キアゲハ
- ④ジャコウアゲハ（幼虫）

シジミチョウ科

- ①ウラギンシジミ
- ②ツバメシジミ
- ③ムラサキシジミ
- ④ムラサキツバメ
- ⑤ヤマトシジミ

シロチョウ科

- ①キタキチョウ
- ②モンシロチョウ

セセリチョウ科

- ①イチモンジセセリ
- ②チャバネセセリ

タテハチョウ科

- ①アカボシゴマダラ（成虫・幼虫・蛹）
- ②アサギマダラ
- ③キタテハ
- ④コムスジ
- ⑤サトキマダラヒカゲ
- ⑥ツマグロヒョウモン♂
- ⑦ヒカゲチョウ
- ⑧ヒメアカタテハ
- ⑨ヒメジャノメ

【参加者の感想】

- ・はじめてイチモンジセセリを観察できた。うれしかったです。
- ・今まで気づかなかったチョウの名前や食草や違いを教えていただき、これから散歩の時も見たいです。とっても楽しかったです。
- ・白子川とか石神井川とか荒川沿いでの調査もいいと思います。
- ・自分ではみつけれない蝶を教えていただき感謝です。
- ・シジミチョウの見分け方がわかり、良かった。
- ・楽しくゆっくりじっくり観察できた。特徴を教えてください、とてもわかりやすかった。
- ・お世話様でした。

2025年9月13日(土)蝶観察写真



アオスジアゲハ(幼虫)



アゲハ



アゲハ(卵)



アゲハ(幼虫)



ジャコウアゲハ(幼虫)



キタキチョウ



モンシロチョウ



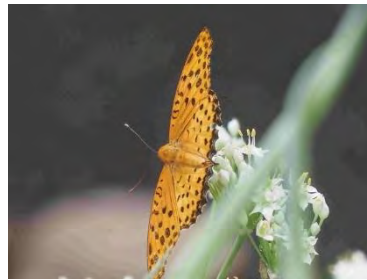
アカボシゴマダラ(幼虫)



アカボシゴマダラ(蛹)



キタテハ



ツマグロヒョウモン♂



ヒメアカタテハ



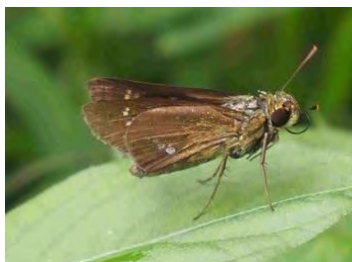
ツバメシジミ



ムラサキツバメ



ヤマトシジミ



イチモンジセセリ



チャバネセセリ



開始時挨拶と蝶の観察説明



観察データの確認と終了挨拶



観察の様子



観察の様子



観察の様子



ジャコウアゲハの蛹

Ⅲ. 佐々木洋先生の冬の野鳥を中心とした自然観察会

【実施概要】

日時	2026年1月18日(日) 9:30~12:00 受付:9:15~(雨天決行)
内容	佐々木洋先生に浮間公園内での野鳥の観察のしかたや園内の自然について解説していただき、園内を散策しながら自然観察会を実施した。また、浮間公園サービスセンター職員によるバードサンクチュアリ内のコンポストの説明を受けた。 まちなかの野鳥をはじめとした生物を観察することによって、わたしたちの暮らしの中(まちなか)に生きている自然を見つめる。
場所	都立浮間公園 バードサンクチュアリ
講師	プロ・ナチュラリスト 佐々木洋氏
参加者	30名 ・かんきょう観察員25名(応募者41名) ・指導者:佐々木洋先生・浮間公園サービスセンター職員2名 ・エコポリスセンター職員2名

【スケジュール】

9:15	入口広場集合
9:30	はじめの挨拶、諸注意、本日の流れ、講師ご紹介
9:45	佐々木洋先生 あいさつ、今日の見どころ説明
9:55	公園の自然観察
10:40	バードサンクチュアリ内にてコンポスト※説明 ブルーギル&ブラックバス回収箱、たい肥化の話
11:00	公園の自然観察
11:55	質疑応答、あいさつ、 アンケート、かんきょう観察ご案内(地域自主活動グループ・自由研究)
12:00	終了

※5年前より浮間ヶ池に2つのブルーギルボックスという特定外来生物回収箱を設置し、釣り利用のご来園者に協力いただき、少しでも特定外来生物を減少できたらといった取組みをしている。また、回収したものをそのまま廃棄するのではなく、バードサンクチュアリ内にコンポストを置き、堆肥化にも取り組んでいる。



オナガ※1



キンクロハジロ※1

※1:かんきょう観察員 大松さん撮影

【当日観察できたもの】

	野鳥	説明
1	アオサギ	
2	オオバン	国内線、潜って水草を食べる。カオナシに似ている。
3	オナガ	カラスと対等。ツミと一緒に協力してカラスを追い払う。
4	カイツブリ	
5	カルガモ	くちばしの先だけ、黄色。カモの中では重い方。 1Lの牛乳パックの中身入りと同じくらい。
6	カワウ	頭が白いのは繁殖期 6 か月間、目はエメラルドグリーン。羽根を広げると 150cm。長良川の鶺鴒いはウミウ
7	カワセミ	 ※1
8	キジバト	羽根がキジのメスに似ているから
9	キンクロハジロ	目が金色
10	ゴイサギ	夜行性
11	コゲラ	コゲラは 6P チーズ 1 個と同じくらいの重さ。
12	コサギ	サギは大中小、コサギは足指黄色、羽先レースのカーテン(繁殖羽)、羽根に水面のキラキラが映っている。国内線いつもいる。昼行性
13	シジュウカラ	胸のネクタイ模様が広いのがオス、狭いのがメス。
14	スズメ	10 円玉 4 枚分の重さ
15	ダイサギ	 ※1
16	ドバト	お寺のお堂から「堂バト」→ドバト
17	トビ	しっぽが三味線のバチの形。視力 8.0。器用に足で餌を取る。
18	ハクセキレイ	板橋区の鳥
19	ハシビロガモ	くちばしが広い
20	ハシブトガラス	鳴き声カーカー全長 57cm
21	ハシボソガラス	鳴き声ガーガー
22	バン	 ※1
23	ヒヨドリ	
24	ホシハジロ	オスは目が赤い
25	ムクドリ	青い卵、九官鳥の仲間
26	モズ	モノマネが得意
27	ユリカモメ	若鳥は尾羽に黒い筋。足はミカン色

※1: かんきょう観察員 大松さん撮影

	植物	説明
1	ギンナン (イチヨウの実)	人間は種を食べるが動物は果実を食べる。ギンナンは強いにおいで動物を呼び寄せる。柿はにおいがほとんどなく、色で目立って鳥を呼び寄せる。
2	クスノキ	アオスジアゲハの幼虫の食草。防虫剤として使われるのになぜ食べるのか？①他の虫が食べないので一人占め②毒を体内に蓄えて捕食者に食べられないようにする。葉は揉むと生姜の香り。黒い実はロクシタンのハンドクリームの香り。
3	セイヨウタンポポ	200の花の集合体
4	ハルノグシ	もともと1月に咲くものではない。温暖化の影響
5	メタセコイア	
6	ヤエムグラ	下向きの小さなとげがあり、勲章草やシールの草と呼ばれる。
7	ラクウショウ	
8	ノビル	葉っぱがおいしい。球根も食べられる。
9	サザンカ	花びらの針あのような点々はメジロのつついた跡。花の蜜を吸うのではなく、舌にからめとって食べる。

	その他	説明
1	カラスの古巣	他の鳥は巣を使うのは1回限りのものが多いが、カラスは数年何回か使う。最近クリーニング店が針金ハンガーを使わなくなったので針金を巣の素材に使わなくなった。
2	サルノコシカケ	
3	ナメクジやカタツムリの食べた痕跡	
4	日当たりで樹皮の温度の違い	日当たりの良い樹皮はとても温かい。昆虫は昼夜の温度差が少ない日陰の方に多くいる。鳥も知っていて日陰に餌を取りに行く。

【参加者の感想】

- ・ 佐々木先生の説明がおもしろい！
- ・ たくさんの鳥が見られてとても良かったです。先生の講義も良かった。
- ・ 佐々木先生のお話と観察がとても楽しかった。天気も良く多くの鳥を観察できて満足。
- ・ 興味深く、わかりやすい説明でよかった。楽しい Birdwatching でした。
- ・ 佐々木先生の鳥、生物、毎年楽しみにしています。今回もステキな一日でした。
- ・ 天気も良く、鳥もいっぱい、鳥が動いているのも見られてとても良かったです。
- ・ 鳥をたくさん見られて、先生のお話も楽しくてこれからも鳥を見たいと思いました。ありがとうございました！
- ・ たくさんの鳥を見ることができ、良かった。佐々木先生の説明も細かい説明も大変良かった。
- ・ たくさんの鳥を見ることができて良かったです。ゴイサギのなる木！

- ・説明が大変わかりやすく楽しかったです。
- ・鳥がたくさん見られてよかったです。時間もゆったりしていてじっくり観察できました。ありがとうございました。
- ・初めての参加で興味津々でした。佐々木先生の解説お話がユーモアもあって、とても楽しい一日でした。ありがとうございます。今日で野鳥にとっても興味がわきました。何種類か名前をしっかりと記憶しました。
- ・鳥のことは全く興味がありませんでしたが、先生の楽しいトークで、興味がわいてきました。今後目、耳を鳥に傾けてみたいと思いました。
- ・初めて参加ですが、バードサンクチュアリなど入れない場所に入れてよかったです。佐々木先生の話もわかりやすくよかったです。
- ・ゴイサギ、カワセミなど珍しい鳥を見られてうれしかった。バンを初めて見る事ができた。この豊かな自然をいつまでも保全したいですね。
- ・大変良かった。
- ・今日はありがとうございました。とても勉強になりました。先生のお話も分かりやすかったです。
- ・講師の説明がユーモアがあり、大変面白く興味深かった。
- ・先生の説明、多くの鳥と出会えました。天気にも恵まれ良かったです。



モズ※1



ダイサギ※1



コサギ※1



ユリカモメ※1

※1: かんきょう観察員 大松さん撮影



観察の様子



観察の様子



浮間ヶ池の様子



観察の様子



佐々木先生の解説



バードサンクチュアリ内のコンポスト



佐々木先生の解説

令和 8 年 3 月発行
令和 7 年度 かんきょう観察報告書
～みつめよう わたしたちの街～

編集・発行：板橋区立エコポリスセンター
〒174-0063 板橋区前野町 4-6-1
TEL：03-5970-5001
FAX：03-5970-2255

刊行物番号

R07-166

この冊子は古紙が配合されている再生紙を使用しています。